

「常磐地区市街地再生整備基本計画（素案）」に対する市民意見の内容及び意見に対する市の考え方

部課等名：都市建設部 都市計画課

※下線部は計画への反映箇所を示します。

No.	市民意見の内容	意見に対する市の考え方
1	<p>常磐地区市街地再生整備基本計画（素案）策定について、今日貴局より示されました基本計画（素案）の策定には、行政の職員の方々が湯本町に連日のように足を運び、まち衆と協議を重ねるなどをして、やっとここまで辿り着いたものとして衆目が認めるその意義は大きいと考えます。行政を含めこの仕事に携わった人たちに対し、「常磐地区まちづくり検討会」の一員として御礼申し上げます。今後、実施計画策定の段階で具現化に向けて、十分な協議と調整が必要と思われる大切な一点のみを申し上げます。</p> <p>「交流拠点施設やその周辺は、居心地のよい空間を形成するため、クルマ中心から人や公共交通中心の土地利用への転換を図る」としています事に大いに賛同いたします。しかし、面整備が基本方針の通りにできたとしても、地域住民そして来訪者が安心して利用できる移動手段として、利便性の高い地域公共交通が整備されていなければなりません。公共交通なくして都市計画は成し得ません。</p> <p>今や専門家は、「街づくりの一環としての地域公共交通は重要であり、それには自治体が主体となり交通事業者や利用者・住民、そして様々なステークホルダーが参画して改善し、実働するプレイヤーとなって共創することで、地域に合った地域公共交通を盛り上げる存在になる」（名古屋大学大学院教授加藤博和さんの東北経済連への投稿から）と指摘しておられます。</p> <p>いわき市包括支援センターの方に聴けば、「いまや高齢者の最も深刻な課題は（公共）交通であるとも言われています。高齢者のQ. O. Lの向上、身体の不自由な方、妊産婦、子供たちを含めた多くの人々の「福祉の観点」から、利便性の高い地域公共交通の整備を本事業と一体的に進められるべきと思料いたします。</p> <p>計画策定にあたっては、先進都市のように高齢者等の歩行空間とその導線を考慮しながら、交通結節点の利を生かし、路線バスやコミュニティバス、デマンドバス、タクシーそしてキス&ライド（送迎用交通手段）が、輻輳せず乗り継ぎできる安全な駅前広場として整備される事と、これに隣接される公共施設と商業施設が織りなし、「市民の営みが見える」持続可能なコミュニティ空間を創り、賑わいを取り戻して行ってほしいものです。</p>	<p>常磐地区における市街地再生を実現するには、安全で利便性の高い公共交通の確保が重要であると認識しており、本計画では、「車から人中心への転換」や「公共交通の利便性・快適性の向上」、「車両の輻輳による危険な状況の解消」に取り組むこととしています。</p> <p>また、本年 8 月に第二次いわき都市圏都市交通マスタープランを策定し、実行計画となる都市・地域総合交通戦略及び地域公共交通計画の検討を進めているところであり、<u>いただいた御意見も踏まえ、多様な交通手段の導入など、楽しいお出かけが実現できる取り組みについて、検討を進めていきます。</u></p> <p><u>湯本駅前</u>の整備にあたっては、<u>交流拠点施設と交通広場の敷地を一体的に捉え、歩行者動線も踏まえながら、具体的に検討を進めていくこととしています。</u></p> <p>御意見を踏まえ、【全体計画】P10の「湯本駅前街区再編・駅前広場整備事業」の文章、「整備コンセプト（案）」、及び【多世代が集う交流拠点施設基本計画】P11の「駅前交通広場の施設づくりの考え方」について追加します。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の住民による住民のための市街地再生 <p>結論から言うと、私は素案を見ていないので、それに対しての意見は言えないが、「何を行うにしても、地域住民の一人一人を大切に街づくり」を行っていくべきだと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りの力を！ <p>四国四県で高校総体が行われる。ある県の知事が言った。「四国には、お遍路さんをもてなす</p>	<p>本計画の策定に向けては、地域関係団体及び県市関係部署で構成する「常磐地区まちづくり検討会」や「ワーキンググループ」などにおいて、多くの意見交換を重ねてきました。</p> <p>持続的で魅力あるまちづくりの推進にあたっては、地</p>

	<p>風土がある。それを活用し大会運営をしたい。」と。「お・も・て・な・し」で東京オリンピックの誘致に一役かった「おもてなし」とは、相手を受け入れること、すなわち「愛」である。「愛」とは「心を受け入れること」と書く。私は、母を湯本病院に送迎する時や草木台の母の友達の庭を見に行く時、松柏館から旧市街地に入り、立体橋に上る道を通る。2週間程前、正木屋材木店の御隠居さんの工房前に「材木提供します」の貼り紙を見つけた。木工を嗜むので喜んだ。工房の主が留守だったので、奥の本宅に声をかけた。奥さんが出てこられ、御主人が戻るまでの間、邸宅や庭園を拝見させていただくとともに、まちの旅館の廃業や若い方がカフェを始めているなど、地区についてお話を聞かせていただいた。その後、帰ってきた御主人に古新聞入れと木製の竹踏み、木端をいただいた。何気ない「おもてなし」に喜んだ私は、この道のリピーターになった。</p> <p>・子供とともに！</p> <p>新聞で「殺処分ゼロ・児童が啓発」という見出しに出会った。6人の小学生が動物助け隊キッズサポーターなるものを組織し、募金活動や野良猫の糞の処分、InstagramやYouTubeで情報の発信をしている。今回、動物愛護をテーマに客室づくりを計画しているホテルの室内に置く本の選定、ペットと泊まれる客室整備（家具の配置など）の助言を依頼された。</p> <p>「すごい小学生だと思わないか？俺、この子達を応援したいと思うんだけど、Instagramって何だ？」バイトから帰った息子に私が言った。今後は、是非Instagramを覚えて、動物助け隊のメンバーに加えてもらいたいものだ。</p> <p>・まとめ</p> <p>今あるものを活用して、新しいものを創ってってもらいたい。</p> <p>今あるものは、「おもてなしの心」や「まちの歴史」、「ボランティアマインド」などがあるので、今後、「居心地の良い人間関係」をつくってもらいたい。</p>	<p>域コミュニティの形成・強化が不可欠なことから、御意見にもある「居心地の良い人間関係」を参考に、取り組んでいきたいと考えています。</p>
3	<p>湯本駅周辺を整備するのであれば、そこに車で訪れる人のために駐車場の整備は必須と考えます。</p> <p>関船方面から湯本駅までの道路は一部の区間は整備がなされ、幅員が広くなり、安全に歩行できるようになりました。しかし、まだ未整備で幅員が狭い区間があり、歩行者は危険を感じることがあります。そのため、駅方面に向かう際は河川敷を利用する方がいますが、河川敷は未舗装で草刈りなどの維持管理もなかなか実施されていません。河川敷の舗装や草刈りの実施など、周辺環境の整備も検討していただきたいです。</p> <p>駅前には図書館を整備することで人を集客できるのでしょうか？現在の市民会館などが立地する場所では、昔は多くのイベントで賑わっていました。賑わいをどのように創っていくかが重要と考えます。</p>	<p>湯本駅前においては、交流拠点施設や駅への送迎、周辺商店街での利用を想定し、本計画では150台程度の駐車場整備を位置付けています。また、周辺の民間駐車場との連携も検討することとしています。</p> <p>河川敷の草刈りなどについては、関係機関と情報共有を図ります。</p> <p>駅前への集客については、交流拠点に導入を検討する公共機能のほか、民間機能も複合的に配置するとともに、周辺商店との連携を図りながら、多様な人々が集い、憩い、そして賑わいや交流が育まれる拠点を形成する計画</p>

		<p>としています。</p>
4	<p>現代の車社会に対応した施設の整備が最も重要になると思います。大きなテーマパークには大きな駐車場が必要です。</p> <p>湯本駅前温泉街は宿泊室が凡そ900室あります。年間の宿泊客が震災前は年間50万人いました。</p> <p>これまで最も大きな課題になっていたのは、駐車場の確保ではないでしょうか。</p> <p>今後、グリーンスタジアムのサッカー場が改修させJリーグの試合が行われると、近隣の交通渋滞が予測され、駐車場をサッカー場のある公園の外に設け、シャトルバスで観客を運ぶことも考えなくてはならないと思います。</p> <p>今の湯本駅の廻りで大規模な駐車場が整備できる場所は、湯本駅の東側にある湯本川に面する既存の駐車場です。</p> <p>この駐車場を拡張して1000台停まれるようにするのが、湯本駅前温泉街を再生する上で最も効果があります。</p>	<p>湯本駅前においては、交流拠点施設や駅への送迎、周辺商店街での利用を想定し、本計画では150台程度の駐車場整備を位置付けています。また、周辺の民間駐車場との連携も検討することとしています。</p> <p>駅東側の敷地活用については、駅前や周辺施設での土地利用の変化により、さらなる交通機能の需要が見込まれる場合において、検討を進める必要があるものと考えています。</p> <p><u>グリーンフィールド等、21世紀の森公園へのアクセス手法の御意見については、【全体計画】P21の「(参考)常磐地区の市街地再生に向けたアイデア」へ追加します。</u></p>
5	<p>常磐地区、湯本の温泉とその周辺を生かそうとする思いが見えた。完璧と言えるほどの内容だとも思えた。</p> <p>しかし、対象地である常磐地区、湯本以外からの集客、来訪を視野に入れるとよいのではないのでしょうか。そうしないと、常磐地区に用がある人しか来ないという形で、参加人数が頭打ちになるのではないのでしょうか。</p> <p>常磐地区以外にも名物はたくさんあり、それらと連携する方法もあると思います。例えば、須賀川市と連携したウルトラマンのスタンプラリーや特撮の撮影補助をしたり。郡山市と連携して、定期的に任意の学校から合唱団を数組招いて温泉地で歌ってもらったりスパを楽しんでもらったり。福島県内だけでも、各地と連携すれば毎月催しが出来る可能性があります。</p> <p>常磐地区で県内の名物に触れられることは、県の顔として認知され、短い間隔での催しの開催は、気軽な来訪にも繋がると思います。</p> <p>周りの力を借りることも選択肢の一つと考えます。</p> <p>金銭面に余裕があれば、投資の一環として、抽選で無料招待（温泉宿に宿泊などのモニターツアー）の企画を定期的実施するのもよいのではないのでしょうか。気に入って貰えれば、リピーターの増加やSNSによる情報発信にも繋がるかもしれません。また、食べ歩きやお土産の購入を通して、地元商店にも良い効果となる可能性があります。</p>	<p>地域内外の様々な資源との連携については、来訪機会の創出に繋がる取り組みであることから、<u>いただいた御意見については、【全体計画】P21の「(参考)常磐地区の市街地再生に向けたアイデア」へ追加します。</u></p>
6	<p>(1) まちづくりの全体的な方向性について</p> <p>「にぎわい」「滞留拠点」「非日常」の文言が多用され、これらの観点に注力すると、まちづくりの方向性が近視眼的になり、中、長期的、段階的という時代の変化に対応できるまちづくりができない。</p> <p>まずは、人口減少の進行、厳しい財政状況の中で、今ある施設のリニューアルが現実的であり、</p>	<p>湯本駅前の交流拠点施設や滞留拠点施設をはじめ、本計画では、地域資源である温泉を活用することとしています。</p> <p><u>御意見のとおり、その特質・普遍性をきちんと認識し、健康など市民の利益にもつながるよう取り組みを推進す</u></p>

<p>その上でまちづくりの中核を担う（まちづくりのへその部分）シンボルとなる施設を新設することを検討することが重要となります。</p> <p>(2) まちづくりの目指す目標について</p> <p>常磐地区として不変的な資源は「温泉」であり、いわき湯本温泉の特質を明確にし、市民、市民以外（観光客も含め）が利用することで、市民の利益（経済的、健康的等）につながり、交流人口が増え、いわき市が豊かになることを目指すことが不可欠。</p> <p>（具体的には）</p> <p>①温泉を中核としたヘルスツーリズムの実現</p> <p>②国民保養温泉地（環境省）の指定（認定）</p> <p>※指定を受ける源泉に関する条件、温泉地に関する条件を参照ください。</p> <p>(3) まちづくりの優先順位の高い事案について</p> <p>まちづくりの優先順位を考える上で、インフラ、特に交通網の整備に比重を置き、電柱の地中化、歩道の確保、駐車場の確保などを先行する必要がある。</p> <p>一方、公共施設の老朽化（常磐支所 64 年、常磐市民会館 56 年、常磐公民館 56 年、常磐図書館 56 年、関船体育館 46 年）は、ほぼハワイアンズの経年と同じであり、民間事業経営に置き換えると修繕、補強等により、リニューアルすることが財政の健全化につながる。</p> <p>その上で、以下の 3 点がまちづくりの優先順位の上位と考えられる。</p> <p>①温泉施設</p> <p>公衆浴場「みゆきの湯」に代わる温泉施設の構想が掲げられていますが、温泉利用の基本として「あわせ湯」を実現できる施設とすることが重要。また、泉質の特質に沿った設計が求められる。</p> <p>②温泉プール</p> <p>いわき湯本温泉の特質の 1 つである「湯量の豊富さ」をアピールするためと、市民の健康維持増進に寄与する「温泉プール」を関船体育館の建築を活用し、いわき湯本温泉のシンボルとする。温泉プールは、「温泉を歩く」水中ウォーキングを主体としたプールとする。</p> <p>③温泉街を住民、観光客が浴衣や下駄で歩く通り</p> <p>湯本駅前までの一方通行の通りを「カラコロ通り」（仮称）として、下駄を履いて歩く、温泉街のシンボル通りとする。下駄は脱着がしやすく、日本人が忘れていた「素足に下駄を履く気持ち良さ」、「気分がしゃきっとして、心が軽くなる、元気が出てくる」など、また、足の裏を刺激し、5本の指が鍛えられ、全身の血行を良くする効果もある。</p> <p>全国各地の温泉地の再生、まちづくり、遊歩道（ヘルスレーン）の開発、既存の施設、設備に対するソフト開発（ハードインソフト）を手掛けてきました。</p> <p>東日本大震災、原発事故、風評被害等、環境的、社会的に健康不安の中にある市民と、高齢化、人口減少が進み、さらには生活習慣病のワーストにランクされ、医療費増大が課題となっている</p>	<p>ることが重要であると考えられるため、【全体計画】P3の「地区の現状と課題」やP4の「目指す将来像」、P16の「滞留拠点の整備の方向性（案）」、【多世代が集う交流拠点施設基本計画】P11の民間収益施設（温浴施設）の「施設づくりの考え方（案）」について修正します。</p> <p>インフラについては、街区再編や道路の整備、駐車場の整備などを計画に位置付けています。</p> <p>多くの公共施設については、これまで事後保全型の維持管理を行ってきており、予防保全が行われずに老朽化が進行した施設を修繕、補強等により維持、さらには時代のニーズにあわせて機能を向上させるには、長寿命化改修費が増高することが考えられます。本計画では、財政健全化とまちづくりの視点をもって、既存の公共施設の機能を新しいサービスの機能として集約するとともに、民間収益施設との複合化も図る計画としています。</p> <p>本計画の魅力ある街並み空間整備事業については、温泉街の回遊の軸を中心に、浴衣でそぞろ歩きを出来る街並みの実現を目指すこととしていますので、下駄を履いて歩く「カラコロ通り（仮称）」の御意見も参考としながら、その実現に向けて検討を進めていきたいと考えています。</p> <p>その他、温泉を活かした具体的な施策などについては、各事業の参考とさせていただきながら、効果的な取り組みとなるよう検討を進めます。</p>
--	---

	<p>いわき市にあって、「温泉」資源は、唯一無二に普遍的な価値、潜在的な価値を秘めた市の財産です。この財産を活かす人材を育成しております。</p> <p>この意見が少しでも役立てればと願っております。</p>	
7	<p>常磐再開発計画を拝見し、1点意見をさせていただきます。</p> <p>計画は当該地区の再生に向け、大変期待できる計画だと、観光で訪れる者として感じています。特に車両と歩行者との交通空間設置については、以前訪れた際に危険を感じていましたので是非整備をお願いしたく思います。</p> <p>一方で上物の再開発は進むものの、地下埋設物である水道、ガス、温泉管、下水道管などのインフラ再構築は今後どのように進んでいくのかが読み取れませんでした。当該地区のインフラの老朽化が進んでいるとの想定の上での意見ですが、インフラ再構築は常磐地区の人流確保、都市機能の強化と継続の観点から見ても重要な要素となると思います。</p> <p>市と一般事業者との違いや一般会計と企業会計の違いがあるかと思いますが持続ある都市再形成という視点からもインフラの老朽化を明らかにしてインフラも含めた総合的な再整備をお願いしたいと思います。</p>	<p>湯本駅前における街区再編や温泉街での街並み空間の整備にあたっては、安全な歩行者動線や道路空間を確保する計画としています。その中で、各施設管理者等と協議・調整を図りながら、インフラ整備も進めていきます。</p>
8	<p>今年の4月に近隣のスーパーの閉店で私たちは大変困っています。</p> <p>高齢者はどこへ買い物に行ったら良いのか考えて迷っています。</p> <p>90歳の友と新しいスーパーに歩いて行きました。家から40分から50分かかりました。国道から店まで歩くのです。疲れて疲れて買い物どころではありませんでした。それからまた家に帰ってくるのです。高齢者には大変無理です。</p> <p>近所の魚や肉、八百屋は全部やめてしまいました。閉店してしまったスーパーが来てからです。それなのに早々と閉店してしまいました。</p> <p>やはり駅前に集いの場があると昔から居る人達にとってとても便利だと思います。活気がないので活気を復活させていただきたいと思います。</p>	<p>本計画では、湯本駅前の交流拠点施設及びその周辺における導入機能の一つに、生鮮食品等の地場産品直売所などを位置付けています。</p> <p>また、交流拠点の整備については、湯本駅前がみんなの「たまり場（居場所）」となり、たくさんの賑わいが生まれ、新たな交流が育まれるきっかけの場所となるような計画としています。</p> <p><u>「買い物ニーズへの対応」や「集いの場の整備」に係る御意見については、地区の課題として捉えていましたが、本計画では未記載であったため、【全体計画】P3の「地区の現状と課題」に追加します。</u></p>
9	<p>温泉神社前から上町踏切に至る三函地内の通称表町通りの温泉通り商店街、上町商店街の商業地域は、いわき市誕生時頃から衰退の一途を辿ってきてしまい、現在では青果物店、鮮魚店等の商店は皆無となってしまった。</p> <p>商店街を再興させるのは大変に困難と思われるが、住宅地にするなど、区画整理事業に取り組んでもらいたい。</p> <p>1 商店街の衰退の原因は時代の流れにより変化していきますが、原因の一つとして、表町通りは道幅も十分ではなく既存の電力柱の他に商店街の店名入りの街灯を数多く設置したことにより、商店前に一時的に車を止めることができなくなり、車の流れが悪くなってしまった。</p> <p>街灯の設置個所を検討してもらい、路地の出入り箇所にあるものは整理した方が良くと思わ</p>	<p>三函地区において、面的な区画整理事業によるハード整備を実施することは、多くの住居等の移転を伴う大規模な事業となるため、まずは、既存ストックを活用したソフト施策に取り組むことが重要と考えています。</p> <p>本計画では、商店街への立ち寄り機会を増やしていく取り組みや、道路空間を上手に活用する取り組みなどにより、魅力を高めていくこととしています。</p> <p>街灯の設置箇所については、今後の取り組みの中で、関</p>

	<p>れる。</p> <p>2 道路改修工事の要望</p> <p>① 上町踏切脇の一方通行入口は、道幅が特に狭く、ゴミ収集車がようやく通れるくらいの難所で、街中に入ってくる車両を阻害している。災害時等に消防車が通行できるくらいの道幅を確保してもらいたい。</p> <p>工事には一部住民の土地を買収する必要がありますが、早急に実現できるようにしてもらいたい。</p> <p>② 道幅が狭く、改良を必要とする個所として、ホテル斉菊から向田地内のホテル遊湯亭に至る道路。上川、宝海に至る道路を消防車が通りやすい道幅に改修してもらいたい。</p> <p>3 商店街名入り街灯の移動願い</p> <p>表町通りの上町商店街の街灯設置により、軽自動車も通れない状態で道路としての機能を果たしていない。</p> <p>4 下水溝流れの改善について</p> <p>表町通りの下水が低地の住宅の住宅地に一方的に流れてくる状態となっており、昭和から平成にかけて2回地域全体が床上浸水被害にあっているところであり、表町通りに設置してある下水溝を検討してもらい、下水の流れを分散できるように改修をお願いしたい。</p>	<p>係団体等とも協議・調整を進めていきたいと考えています。</p> <p>その他御要望については、関係機関と情報共有を図ります。</p>
10	<p>○「全体計画」p. 03. 第1章はじめに> 5. 地区の現状と課題項について</p> <p>(賛) 電柱や電線類については、景観や災害対策上から地下埋設化がよろしいのではないのでしょうか。</p> <p>○「全体計画」p. 05. 第2章地区が目指す再生のビジョン> 2. 市街地再生に向けた基本的な考え方</p> <p>(反) 方針1の「多世代が集う交流拠点の整備」と方針2~5が相反しているのではないか。</p> <p>湯本駅前を温泉地の玄関口として再生を企図するのであれば、地域住民の交流拠点や支所・図書館は駅前に整備しない方がよい。</p> <p>首都圏から来る観光客は非日常を味わうために2時間かけて来る。</p> <p>例えば、非日常観光地の代表であるテーマパークは、玄関口では、そこで働く人の住居や非番の姿を決して見せない。</p> <p>駅・駅前・商店街・温泉宿・入浴施設・神社・寺院は、トータルで温泉観光地という非日常エリアを構成しているのであって、そこに役所や公民館。住居などの従業員のバックヤードを見せてしまっただけでは、わざわざ2時間かけて来ているにも関わらず興ざめしてしまい、他人の家庭の庭先にお邪魔している気持ちになって、2度と来なくなる。</p> <p>結果として湯本駅前や商店街は活気がなくスプロール化している。</p> <p>この「多世代」が指すのが、地域住民ではなく、観光客の中の多世代を指すのであれば、わざわざ旅先で行きずりの人と交流する人が存在するのか？</p>	<p>湯本駅前については、鉄道やバスなどの交通結節点であり、地域住民をはじめ観光客が利用する、まちの玄関口となっています。そのため、今後の急速な人口減少なども踏まえ、駅前を単なる通過場所ではなく、地域住民も含め、多くの立ち寄りや交流が生まれる場所とする計画としています。交流拠点施設については、財政健全化とまちづくりの視点をもって、既存の公共施設の機能を新しいサービスの機能として集約するとともに、民間収益施設との複合化を図る計画としています。</p> <p><u>御意見のとおり、観光客の方々が興ざめしないような工夫は大変重要となりますので、【多世代が集う交流拠点施設基本計画】P9の「各機能の施設づくりの考え方と規模感」について修正します。</u></p> <p>対象区域については、エリアガイドマップのようなものではなく、基本計画で定める取り組みの位置図を示しています。</p>

通常、観光客は、それぞれ目的とスケジュールがあつて観光地に来ているのであつて、交流をしに来ているのではない。市役所内で旅先で他所から来た人と駅前で交流した経験があるかアンケートを採ったことはあるのか？ 駅前を温泉商業地区の玄関口として再生したいのであれば、公共・三セク施設としては観光案内所や手荷物預所のみを駅前に設置し、支所や図書館など従業員バックヤードは、公有地活用エリアに集約することが適切である。有馬温泉や箱根湯本温泉、伊東温泉、熱海温泉では、支所は駅前商店街にはなく、温泉街エリアを外れた住宅地や川向かいに存在する。駅前に支所が存在するのは草津温泉のみである。なぜ大多数の例を真似ずに特異な例を後追いつけるのか。追加説明が必要。

○「全体計画」p. 06. 第2章地区が目指す再生のビジョン>3. 対象区域

地図に計画エリアを落とし込んだものが資料として提示されているが、他の有名温泉地、有馬、箱根湯本、草津の同様のエリアマップが参考として挙げられていないのはなぜか？ 温泉地の再開である以上、先進地域を参考として採り上げて比較するのは当然のことと思われるが、それをしないのはなぜか？ 何か不都合でもあるのか？ 比較をしなくてよいと思った理由は何か？ 少なくとも、草津と箱根湯本は首都圏観光客を対象とするライバルである。ライバルを研究して良い所を採り入れるというのは、何も温泉地再開に限らず、サッカーや民間企業でもやることである。それをやっていないのはなぜか？

○「全体計画」p. 07. 第3章まちの再生に向けた取り組み>1. 各エリアでの取り組み>駅前エリア

・エリアイメージ「湯本らしい居心地のよい人と情報のたまり場」

(反) 意味不明。前述したように、観光客は目的とスケジュールがあつて2時間かけてわざわざ来ているのであつて、駅前に長時間滞在する意義はない。

駅前がたまり場になっている温泉地の先例はどこかにあるのか。具体例をあげてほしい。ない場合は、なぜ税金や民間資金を使って冒険するのか説明を。

・エリアの考え方

(反) 1番目「観光拠点の……」と2番目「子供から高齢者まで……」が矛盾している。

(反) 2番目の「子供から高齢者」が指すのは観光客か地域住民かが曖昧。前者なら前述の理由で長期滞在はしない。後者ならバックヤードを観光駅前に作ってはならない。

(反) 4番目の「地域住民にとって日常的に……観光客にも……非日常が」一文の中で矛盾が生じている。矛盾しているがために実現は無理。

(反) 前述したように、他人の家庭の庭先に温泉旅行に来る暇人はいない。

○「全体計画」p. 09. 第3章まちの再生に向けた取り組み>参考、まち庭のイメージ

(反) 多治見市ともう1箇所の写真が掲載されているが、温泉観光地の駅前再開事業の話に、温泉観光地でない場所の事例を持ってくることが理解し難いし、説得力がない。

○「全体計画」p. 12. 第3章まちの再生に向けた取り組み>市営住宅天王崎団地跡地利活用事業

写真については、ランドスケープコンセプトの「まち庭」のイメージや、天王崎団地跡地利活用における賑わいのある空間のイメージとして掲載しています。

駅前の交流拠点施設の考え方については前記のとおりとなります。公有地活用エリアについては、今後の急速な人口減少や高齢化が進む中でも、医療や福祉、商業等の生活サービス施設を誘導し、生活利便性・快適性の向上や地域経済の活性化につなげていきたいと考えています。

合宿誘致については、地域の関係団体でも力を入れているものと伺っています。また、温泉の利活用の御意見についても、関係団体と共有し、温泉地としての再生に繋がるよう検討を進めていきます。

街並みのデザインについては、今後具体的に整理を進めていきます。そのため、レトロ感のある統一的な外装の御意見も参考としながら、魅力ある街並み空間が創出できるよう、検討を進めていきます。

アンケート調査については、常磐地区市街地再生整備基本方針策定にあたり、常磐地区の年齢階層割合を踏まえ、無作為抽出により各世代を対象に実施したものととなります。なお、市街地再生に向けた取り組みを進めるうえでは、地域と行政が共創の理念のもと推進することが重要と考えています。

さはこの湯と「スパ+ヘルス」が重複することについては、駅を出て温泉地を感じる機能として、旅館関係者とも協議しながら検討を進めてきたものです。

モビリティの中のキックボードの導入については、安全性や回遊性に関する御意見も踏まえながら、今後具体的に検討を進めていきたいと考えています。

(反) 同上。福井市は温泉地ではない。

○「全体計画」p. 14. 第3章まちの再生に向けた取り組み>にぎわい再生事業
 (賛)「駅前から温泉地にかけて……回遊性を高めます」それが分かっているにも関わらず、駅前交流拠点の話が出てくるのが残念。
 駅前、商店街、温泉地が一体となって交流エリアを構成するのであって、駅前にのみ交流拠点を作って交流をさせようというハコモノ発想がもう古い。
 ららみゅうの二番煎じ狙いか。

○「全体計画」p. 19. 第3章まちの再生に向けた取り組み>公有地活用エリア
 (反)「駅前の交流拠点への機能再編後には、土地利用を転換することに」……前述の理由により理解不能。逆にここに集約した方が良い。
 観光客に見せるエリアと従業員バックヤードは分けるべき。

○「全体計画」p. 21. 第3章まちの再生に向けた取り組み>常磐地区の市街地再生に向けたアイデア
 (賛)「温泉を健康・美容・スポーツなどとリンクさせて」……他の有名温泉地やハワイアンズと差別化を図るために、スポーツ合宿やスポーツ温浴医療に重点をおいた温泉地作りはどうか。
 近くに競走馬温浴治療施設と FC パーク、J ヴィレッジ (比較的) があるので、まずはジュニア・大学・企業の各サッカー合宿を重点的に誘致してはどうか。
 練習場については経営が芳しくないハワイアンズに不活用土地の提供を呼びかけてはどうか。
 (賛)「大正・昭和レトロ」……いっそのこと、駅前から天王崎団地跡地、温泉街まで、松柏館や童謡館のようなレトロ外装に統一してはどうか。
 川越市が大正レトロ・蔵造り街として年間700万人(コロナ前)を超える一大観光地と化しているので、視察に行ってはどうか。(観光地と住宅地の棲み分けが出来ている面も含めて)
 (反)「駅前の居住性……ミニスーパーや健康増進施設、高齢者向け住宅」……湯本駅前がただの温泉が涌くさびれた住宅地と化しかねない。それではカネも仕事も子供も生まれず、現状の駅前スプロールが悪化するだけ。
 別資料でアンケートの調査結果を見たが、対象が50～70代が半数以上で、職業も無職が半数弱。これではこんな意見が出て来るのは当然である。こんな偏った母集団を対象とした以上、アンケート調査はある面では失敗したと言わざるを得ない。
 現状の駅前スプロールをもたらした人々の意見を聞くことが、温泉街再開発に一体何のプラスになるというのか。住民自治の結果として失敗した以上、巻き返しを図るためにこの基本計画があるのであって、住民の自分勝手なリクエストを反映させる必要は全くない。

○「多世代が集う交流拠点施設基本計画」
 (反)従業員バックヤードを観光客に見せない。そんなことをやっているのは草津温泉のみで、箱根も有馬もやっていない。温泉観光地として復活させて市税収入と観光人口・労働人口を増や

駐車場については、交流拠点施設や駅への送迎、周辺商店街での利用を想定し、本計画では150台程度の立体駐車場の整備位置付けています。また、周辺の民間駐車場との連携も検討することとしています。

【多世代が集う交流拠点施設基本計画】P19の「施設づくりに向けて配慮すべき意見」については、これまでの検討において寄せられたアイデア等を参考として記載したものととなります。

JR湯本駅の発車ベル「シャボン玉」については、湯本地区に所縁のある詩人の野口雨情が作詞した曲であると伺っています。現在、市と地域では、湯本駅とその周辺において一体的な賑わいを創出するため、ハワイアンミュージック等が流れる音響設備の整備について検討を進めています。

本計画の各取り組みは、いわき湯本温泉を温泉観光地としてブランド化していく視点・戦略をもって具体的に展開しなければならないと考えています。

このため、専門家も交え、温泉観光地としての「まちのあり方・デザインの指針」となる戦略を策定し、この戦略に基づきながら各取組みが展開される仕組みづくりを進めます。御意見も踏まえ、【全体計画】に、今後の進め方を追加します。

すのが目的ではないのか、という理由から駅前に作ることは反対、関船体育館近辺に集約再生することには賛成。

○「多世代が集う交流拠点施設基本計画」p. 11. 第4章、導入機能の検討

(反) スパ+ヘルス機能……さはこの湯と重複、温泉旅館などの民業圧迫になるので反対

(反) モビリティ機能>二次交通>電動自転車やキックボードの貸し出し……キックボードについては小学生の死亡事故が発生している。また、温泉観光地は古くから存在していることから道が狭く、高低差もあり、浴衣で歩くことがメインなため、これらの乗り物は他者にとって非常に危険であるため導入に反対。

○「多世代が集う交流拠点施設基本計画」p. 15. 第5章、敷地利用計画の検討>3. 駐車場計画の検討

有馬温泉など、他所の温泉地には平地の駐車場だけではなく、上野駅の向かいに存在した建物タイプの立体駐車場もあるのでそちらも検討を。

収容台数によっては、金比羅神社の正月例大祭の対応にも有効。

○「多世代が集う交流拠点施設基本計画」p. 19. 第7章、実現化へ向けて>3. 施設づくりに向け配慮すべき意見

・モビリティ

(反)「サイクリストが立ち寄れる施設がある駅前広場」……前述したように温泉観光地は道が狭く人が多いため、自転車は不向き。そもそもサイクリスト用施設は沿岸に整備済みであり湯本にも整備するのは、それらから距離も遠く、欲張りすぎ。

(賛)「ハワイアンミュージックが流れている駅前広場」……市外の人々のいわき市のイメージはハワイである。

首都圏からの観光玄関口である湯本駅構内や駅前でハワイ民謡を流すのはとても効果的。ついでに発車ベルもシャボン玉からハワイ民謡か誰でも知っているカメハメハ大王に変更すべき。何が悲しくて東京からわざわざ2時間もかけて来たのに、子どもが死んだ歌(シャボン玉)を聴かなければならないのか。あの選曲は全くのマイナス。

・まち庭

(反)「子供たちが安全に過ごせる広場空間」「バスケットやサッカーなどをして遊べる広場空間」「天気の良い日はハンモックでお昼寝できる広場空間」……温泉観光地の玄関でそんなことが可能な場所は日本に存在しない。バックヤードを客に見せてはならない。アリオス広場で十分。遠いなら常磐支所リニューアルで作ればいい。

・その他

(賛)「フラを意識しすぎない雰囲気」……湯本はハワイアンズと大正レトロ風スポーツ温泉合宿(例えば)の2本立てで行くべき。ハワイアンズはハワイアンズに任せ、湯本温泉街はスポーツ温泉合宿に注力すべき。女将がフラを踊ることは、具体的に宿泊客数に数字として表れたの

	<p>か？ ハワイアンズ関係は発車ベルと駅構内・駅舎内程度に留めるべき。現状は半端。</p> <p>○総論として</p> <p>(反) 現状の基本計画のままでは恐らく失敗する。温泉観光地と賑やかな子育て住宅地の両立は不可能。そんな温泉街は日本のどこを探しても存在しない。</p> <p>計画にも触れていたように、駅前、商店街、温泉街、温泉神社までを一体として開発すべきで、温泉宿・商店街の従業員バックヤードはその中には含めず、関船エリア（金比羅神社以南一湯長谷）に集約する。棲み分け、ゾーニングは何よりも重要。</p> <p>参考資料として出て来た他自治体が温泉地でない以上、市役所、湯本温泉街組合は今一度、有馬や箱根湯本、草津、川越など先進温泉地・観光地（熱海、伊東、鬼怒川は衰退したので参考にしない）に視察に行くべきである。Google Map で駅、道、商店街、温泉宿、公共施設の配置は事前に分かるが、雰囲気や繁昌・衰退までは分からない。その他意見に「もう一度行きたいと思われる観光地」とあるように、肌感覚で感じてくる必要がある。</p> <p>そもそも観光戦略とは何か。首都圏居住者の時間とカネと（もう1度）行きたい気持ちを、他のライバル観光地と競争して獲得することである。この基本計画にはそれが全くない。ゆえに、この基本計画は現状のままでは失敗する。やり直しが必要だ。</p>	
11	<p>①天王崎1号線が湯本駅前まで続かないのは、使い勝手の悪い道路になってしまうほか、湯本町天王崎交差点の渋滞や県道勿来常磐線の交通量の増大を招き反対です。</p> <p>駅前に行きたい人で、天王崎1号線が駅まで続いていないのを知っている人は、信号の所から県道に出るので交通量が増大する。八仙橋での信号待ちをする車も増える。</p> <p>駅前に所用があって、八仙橋から天王崎1号線に入ってきてしまった人は、途中から県道に出なければならないが、その出口近辺に駐車場が設置されるので、県道に出る車と駐車場に出入りする車で混雑することが予想される。右折する車は、特に難儀するでしょう。</p> <p>快適で安全な「人のたまり場」、交流や賑わいが創出できる空間づくりのため車を進入させないのだと思いますが、天王崎1号線の普段の人通りはごく少なく、たとえ、居心地の良い環境に整備されたとしても、祭りやイベント等でもなければ、人手の増加は期待できません。この地区は、公共交通の便が悪く、まだまだマイカーに頼らざるを得ない状態です。天王崎1号線が駅まで続かないと、県道への出入口と駐車場の出入口が近いために混雑することが予想されます。車の進入が歩行者や広場に集まってくる人などの支障になるような場合は、祭りやイベント等がある時ぐらいではないでしょうか。催し物がある時は、車の進入を禁止すれば良いと思います。</p> <p>②常磐地区のタクシーの営業拠点は湯本駅前であり、天王崎1号線を1日何百回も通行します。笠井の方から来る車は県道を通りますが、八仙橋の台山の方から来る車は、天王崎1号線に入って駅に向かいます。これが駅まで続かないとなると、日常業務の円滑な運行に支障が出るものと思います。</p> <p>③駅前の自動車動線について</p>	<p>本計画では、湯本駅北側にある公共駐車場の移転や公共交通の乗り入れを中心とした交通広場の整備等により、「車から人中心への転換」や「公共交通の利便性・快適性の向上」、「車両の輻輳による危険な状況の解消」に取り組むこととしています。</p> <p>また、湯本駅前街区の再編に伴い、市道天王崎1号線の終点を駅前交通広場から主要地方道常磐勿来線に変更する計画としていますが、人口減少や超高齢社会を向かえる中、将来的には、若い世代を中心に「選ばれるまち」となり、さらには、幅広い世代の方々が「訪れたい」「暮らしたい」と思えるような、魅力ある市街地の再生を図るため、交流拠点施設の整備等により、たくさんの賑わいが生まれ、新たな交流が育まれる場所とする計画としています。</p> <p>なお、湯本駅周辺の交通計画（動線や信号等の交通安全施設など）については、今後、具体的な検討を進めていく中で、関係機関等と協議・調整を進めることとしています。</p>

<p>駅前信号機から駅方向に進入し、南側から県道に出る自動車動線は反対です。信号機の無いところから県道に出るのは危険があり、特に右折する場合は大変危険です。新常磐交通やスパリゾートハワイアンズの車は、いしや洋品店の所から駅に向かい、駅前信号機から県道に出ています。車両が輻輳し、危険な状況なのは駅前広場であって、特に夕刻の列車が到着する前後は、お子さんを迎えに来た車でごった返します。どうかその解決を図って下さい。ブロンズ通りはスムーズに流れており、一方通行にすると返って安全と円滑な交通を阻害し、周辺の混雑と危険を増大させる恐れがあるので、ブロンズ通りの一方通行には反対です。なお、常磐地区のタクシーも1日何百回も通行します。</p> <p>④出店予定地への車両の乗り入れについて 荷物（商品）の搬入・搬出のため、店の軒先まで車両を乗り入れる必要がありますが、それは可ですか不可ですか？</p> <p>⑤タクシー乗車場（現3台）、タクシー降車場（現1台）、タクシー待機場所（現12台）の整備をお願いします。</p>	<p>駅前の街区再編にあたっては、店舗等の敷地などを考慮し、土地利用の維持・増進が図れるよう、検討を進める考えとしています。</p> <p>駅前のタクシーの配置等については、土地利用全体の考え方の中で、引き続きタクシー事業者の方々と協議・調整を進めることとしています。</p>
<p>12 今の素案が、誰がどのようなプロセスで考え描いたのかが大きな問題だと感じています。もし行政が書いたとするなら、単なる検討の一つとして描くのはいいと思いますが、これがそのまま大きな反対もなければマスタープランになっていくのではと憂慮しています。マスタープランは、どんな町にするのかという骨格です。湯本がこの再開発によって生活の質を上げたり、観光客を集めたり、稼ぐことが出来るような、皆が期待するような新しい町の構造になるのかは、マスタープランにかかっています。</p> <p>「町の未来をこの手でつくる 紫波町オガールプロジェクト」という岩手県紫波町の公民連携事業について書かれている本の78頁～には、「従来型の区画整理の絵と道路のパターンが決まった瞬間に、価値のないまちができあがってしまう」とあります。本当にその通りだと思います。市役所の職員が自分たちで、またはその開発に責任のないコンサル会社に書かせたものなら、指摘にある「価値のないまち」になると思います。異動で数年しかいない市の職員は、都市開発やまちづくりのプロフェッショナルではありません。コンサル会社も、クライアントに反対されるような尖った提案はせず、どこかの焼き増しのような無難な絵しか出してきません。まず、そのことに自覚的になるべきかと思います。</p> <p>また、市民の意見をいくら聞いても、地権者や周辺関係者の意見の調整だけして合意形成しても、いい素案もマスタープランもできません。市民にも意見は当然ありますが、プロではないのです。意見は個人的なものを含めた玉石混交であり、全ての意見を聞くことは到底無理だし、要望は総花的になります。そして、今出ているコンセプトも、市民も行政も頑張ったものだと思いますが、具体的な空間を縛る要素があまりないので、どんな街の形をつくっても、コンセプト通りと言ってしまうのです。そんな状態なのに、すでに具体的な空間の配置が素案で示されているのです。これが、プロではない行政が、プロではない市民の意見を元に、これまでの常</p>	<p>湯本駅前については、空き地などの点在により人が集まれる空間が不足し、立ち寄り機会も少なく、賑わいが生まれにくい土地利用であることや、車両の輻輳により、駅前における安全性の確保などが課題となっています。</p> <p>それらの課題等を踏まえ、駅前の街区を再編し、交流拠点施設や周辺店舗などを一体的な空間の中で配置しながら、屋内外で賑わいや交流が育まれる魅力ある場所となるよう、行政と地域で意見交換を重ねて、検討を積み上げてきているものです。</p> <p>また、駅前街区再編の範囲や道路の配置等については、交流拠点への導入機能、公有地や低未利用地等の土地利用、権利の状況、さらには事業費、工事期間等を総合的に勘案し検討しているものです。当該地の区画整理事業は、既成市街地内であり多くの権利者の土地を組み替える事業を想定しており、広大な町有地内の開発の事例とは様々な条件等が異なるものですが、どのような通りとするのかといった考え方や連続性等をもって事業を進めることが大変重要であると認識しています。</p> <p>御意見のとおり、駅前以外の取り組みも含め、全体で一貫性のある考え方・デザインでまちを形づくることが不可欠であり、各取り組みは、いわき湯本温泉を温泉観光地</p>

識で考えて描いた素案なら「価値のないまち」に足を一步踏み入れている可能性が高いと思います。

私の言いたいことは、もう分かると思いますが、今の湯本の再開発のプロセスに欠けているのは、プロの視点と意見です。これからの温泉街やまちはどうあるべきなのか？何を目指してどういう構造の駅前にならなければいけないのか？という根源的な問いに対しては、行政も市民も意見を言える人は少ないでしょう。それは、その道のプロの領域なのです。今からでも、各分野をまたがる専門家複数人によるデザイン会議をつくり、ちゃんと議論してもらう必要があると思います。専門家やデザイナーの出番は、配置が決まった後の最後のお化粧程度に考えているなら、湯本の再開発は失敗すると思います。

ここからは、具体例を出して説明します。

前述した紫波町のオガールプロジェクトでは、松永安光氏という建築家のマスタープランによって全体が計画されています。そこには、中央に街路のような長い広場を挟んだ施設群という配置と設計が最初から意図されています。それらが海外の歩行者優先の商業開発で成功し有効なことが分かっており、また、その施設群の後ろには、公共施設への駐車場の位置も戸建住宅を分譲することも初期から決まっています。それらがベースにあり、区画整理も道路のパターンもすべて行われているのです。それは、区画割と道路のパターンを行政が決めた後に、建築家が建物をつくるというのではなく、区画も道路も建物もランドスケープもすべて統合されたコンセプトと設計意図がありデザインされているのです。そうしないと、あのような街は生まれません。区画と道路が行政に決められてしまった後では、建築設計が街に対してできることが半減してしまいます。せっかく区画や道路からの再開発なのですから、そこからプロに検討させるべきかと思います。素案の中での具体的な話として、駅直結の交通広場についても同様です。

日本でも、姫路など再開発に合わせて駅前を自家用車の進入を禁止して、公共交通のみの進入可としているまちもあります。しかもバスタクシーのロータリーも少しずらした位置にあります。そうすることで、駅前の歩行者空間を物理的に広く取り、一步進んだ歩行者優先のまちの構造を実現しています。湯本でも、「車から人へ」と記載があり、そぞろ歩きを推奨するときに、そのようなことは検討しないのでしょうか？

何かを選ぶことは何かを捨てるということです。交通広場にすることで、駅前の貴重な空間の半分は、よくある交通ロータリーになってしまいます。検討の結果としてそれを市民が選んでいるならいいのですが、なんとなく今までの常識で、各交通は駅至近で直結すべきという発想でいると、ロータリーは少し離れたところに置いても歩行者優先の空間にするというような発想は出てきません。もし草津温泉の湯畑が広大な交通ロータリーだったら、草津は日本一の温泉街になるでしょうか？ランドスケープや空間体験はそれほど重要なのです。

また、素案に描かれている道路も自家用車の進入を想定しているものばかりです。せっかく再開発をするのですから、再開発エリアと接続する商店街も含めて歩行者天国化するくらいの検討

としてブランド化していく視点・戦略をもって展開され、まちとしての統一感や連続性、エリアの魅力が発信される必要があると考えています。

このため、専門家も交え、温泉観光地としての「まちのあり方・デザインの指針」となる戦略を策定し、この戦略に基づきながら各取組みが展開される仕組みづくりを進めます。御意見も踏まえ、【全体計画】に、今後の進め方を追加します。

駅前の歩行空間の確保については、事業規模や公共交通の運用など、様々な状況も踏まえつつ、駅改札から交流拠点エリアへの空間において、人を中心とした滞留機能や動線を確保することにより、街への期待感、開放感、さらには高揚感が得られるよう、具体的に検討を進めていくこととしています。

【全体計画】P10及び【多世代が集う交流拠点施設基本計画】P14のイメージ図について、駅改札の位置などを参考に記載します。

駅前のエリアと接続する商店街も含めた歩行者天国化については、これまでの地域の方々との意見交換なども踏まえ、本計画に記載のとおり、社会実験などの取り組みも検討することとしています。

	<p>があってもよいかと思えます。自動車交通によって、歩行者が道の端に寄せられ、申し訳なきようにしている観光地は日本中にあります。それを根本から変えるチャンスなのに、今までの道路の考え方でいいのでしょうか。歩行者専用にしたときには沿道の賑わいやエリアの価値も大幅に上がります。そういうことを検討した結果の素案なののでしょうか。検討が浅いまま区画や道路のあり方を先に決めてしてしまうと、今書いてきたような、ランドスケープと一体になりデザインされた街の構造をつくる可能性も、一歩進んだ歩行者優先のまちをつくる可能性も、最初から失われてしまうのです。</p> <p>もし、今までの議論で、この位の話が行政からも市民からも出ていないのであれば、検討に漏れがある証拠であり、集めたメンバーでは議論が充分ではなかったということなのです。まちづくりに少し詳しいだけの私でさえ、この程度のことは考えるのですから、本当のプロは、もっと色々な視点で、初期段階から検討するはずなのです。そうしたプロの議論の上で、湯本の未来として何を選択するのかを、行政や市民で考えればいいのです。本当のプロを活用する有効性や、行政と市民だけで考えたベースの上で開発が進む危険性が少しでも伝われば幸いです。</p> <p>余談ですが、プロを集めたデザイン会議は、何年にも渡る再開発の期間中に行政の担当者が異動して、後任次第で内容が変わってしまうというリスクに対して、デザインや開発の継続する監修の仕組みにもなります。その意味でも、有効な仕組みです。ぜひ導入をご検討ください。</p>	
13	<p>まちが良くなっていくには、そこに既に住んでいる人が満足し、新しく、そのまちに興味をもってもらい、訪れる人をいかにして継続的に増やすかが重要です。そのまちに興味をもってもらう人（関係人口）が居ないと、そこに住んでいる人も満足せず、減っていくことになるとも言えます。</p> <p>いわき市の中でも、湯本駅前エリアの再生は、これからのいわき市のために、とても重要な事項でありますので、意見させていただきます。常磐地区市街地再生基本計画（素案）（以下、本計画）を拝見しました。各ワーキンググループで協議を重ね、作成されたものと思いますが、この計画に無かった視点をいくつか提案させていただきます。</p> <p>いわき市は「フラシティいわき」をシティーセールスとして掲げています。湯本はその前から「フラのまち」を掲げています。ですが、湯本駅前も温泉街も、現状、日常的にフラを感じることができません。スパリゾートハワイアンズも、イベント的には協力してくれるものの、おひざ元である湯本温泉街の継続的なまちづくりへの貢献としては、あまり積極的では無いと感じます。今回の素案作成のワーキンググループにも参加されていないのではないのでしょうか。スパリゾートハワイアンズにはもっと主体的に湯本からいわきのまちづくりに関わってほしいし、そのような気持ちになってもらう必要があります。ハワイアンズだけでなく、いわき市内のフラハラウの大半に、まずは湯本のまちづくりに協力してもらえるような意欲を高めていくような試みを、継続していくことが、とても大切だと感じています。</p> <p>フラシティいわきもフラのまち湯本も、フラの専門家抜きで、ワークショップや議論を重ねて</p>	<p>本場のハワイとの交流・結びつきの強化による関係人口の増加、それを支えるハードの取り組みの御意見についても参考とし、交流拠点施設の「まち庭」の機能や、施設づくりの具体的な検討を進めていきたいと考えています。</p> <p>なお、<u>カウアイ島との友好連携や温泉を活かした地熱エネルギーの活用などについては、貴重なアイデアとして、【全体計画】P21の「(参考)常磐地区の市街地再生に向けたアイデア」に追加します。</u></p> <p>市街地の再生に向けては、御意見のとおり、地区の特性を活かした他には無い強みのある取り組みが展開できるよう関係団体等とも連携し検討を進めていきます。</p>

いると感じています。本計画通り、本当に湯本駅前が進んでいくには、フラ女将やフラガールズ甲子園出場のフラガールだけでは到底難しいですね。この点はとても大事なことです。プレーヤーが足りません。

往々にして、市がまとめる計画は、いつもハードありきで、ソフトは民間がやってくれるだろう的なものになってしまいます。それは追々、公民連携でやっていこう、とりあえずマスタープランとロードマップは作ろう、ということであまういでしょうか。

ここで提案です。思考のキッカケにしてください。

「伊香保ハワイアンフェスティバル」今年は8月1日から4日まで開催されます。伊香保温泉が、温泉街を挙げて取り組む一大イベントです。伊香保温泉のある渋川市は、ハワイ州のハワイ島と国際姉妹都市である関係で、世界最大のフラコンペティションの「メリーモナーク」、その年の優勝ハラウかメリーモナーク実行委員会の推薦ハラウが来日して伊香保温泉街を盛り上げます。このイベントは平日開催にも関わらず、この期間は温泉街の温泉宿はどこも満室です。日本はハワイよりフラ人口が多いです。その日本各地から、フラをやっている人が伊香保に向かいます。私は3年前に幸運にも伊香保の温泉宿が取れてフェスを訪れましたが、温泉街の街角やステージで、フラが踊られ、街角フラ→温泉→ステージフラ→温泉→宴会場フラ→温泉の一日を満喫できました。

3年前の秋、いわき市でも「いわきカウアイオハナフラフェスティバル」が開催され、カウアイ島より、レイナーラさんのハラウに来日してもらい、アリオスでのワークショップやステージでのフラを開催しましたが、日本各地よりいわきにフラを踊る人が来ました。何を言いたいか。いわき市はハワイ州カウアイ郡と国際姉妹都市です。東日本大震災の直後、最初にいわきにきた外国の視察団はカウアイ島からでした。カウアイ島にも「モキハナフェスティバル」というフラコンペティションがあります。日本でフラを学んでいる、楽しんでいる人はこんなことは知っています。ハワイの人口よりも多い日本のフラ人口。そして、日本でハワイの本場のフラに触れられるなら、そこに行きます。興味を持ちます。関係人口になります。いわき＝ハワイアンズの知識しかない状態とは雲泥の差でいわきに来ます。いわき市も湯本も、フラシティいわき、フラのまち湯本を掲げるなら、カウアイ島との友好連携を、もっと市民レベルで深める必要があります。伊香保温泉のような年に一度のイベントだけではなく、継続的なフラのワークショップやフラ文化の紹介、体験等がカウアイ島の協力のもと、湯本やいわき市内でできたなら、そして、それに必要な最低限のハードがあったなら、関係人口も増え、そこから湯本、いわきのフラのまちへの再生が始まるし、その方向性もわかってゆくと思っています。カウアイ島とはフラだけでなくその他の文化的、商業的な結びつきも合わせて強め、カウアイ島の経済界とも絆を深めると、さらに加速すると思います。カウアイコーヒーやカウアイクッキーやサトウキビのラム酒など、素晴らしい商材もあります。フラシティいわきブランドにも協力してくれるでしょう。

ちなみに、今年、2022年メリーモナークフェスティバルの総合優勝ハラウは、3年前にいわき

	<p>カウアイオハナフラフェスティバルのため、いわきに来てくれたカウアイ島のレイナーラさんのハラウです。世界一のフラハラウになりました。日本でフラをやっている人、興味がある人はみんな知っています。ハワイアンズダンシングチームの関係者ももちろん知っていると思います。いわき市がもっと姉妹都市であるカウアイ島との連携を頻繁に進めることができれば、自ずと湯本の再開発にも寄与します。</p> <p>もう一つの提案は、カウアイ島との連携に加えて、いわき湯本にしかない特徴をどう出してゆくかです。まちなみ条例や地区計画で規制したりして、徐々に昭和レトロな温泉街をハード整備しても、そんな温泉街は草津を含めたくさんあります。泉質がよい温泉も日本各地にあります。どうやっていわき湯本を選んでもらうのですか。そういう視点が本計画含めて、自治体の計画にはありません。型破りな他に無い強みをアピールする計画にしないと、どこの自治体の計画とも同じこととなります。</p> <p>例えば、「湯本温泉宿のエネルギーは100%温泉地熱エネルギーで賄っています」とか。これは今すぐ難しいでしょうが、SDGsやゼロエミ、脱炭素が謳われている中、そこに向かっての実績も街並み整備以上に必要なことではないでしょうか。自分の時間はよりグリーン、クリーンなところで過ごし選びます。そんな時代です。湯本は内陸ですが、いわきとしてイメージしてもらい、常磐ものによるアプローチも、外から来る人にも効果的です。小名浜との連携です。常磐ものによるハワイのポキとか、本場ハワイより美味しいと思います。湯本、いわき、で育まれた独自のフラ文化も興味深いし、大切にすべきと考えますが、フラのまち、フラシティ、を謳うなら、本場ハワイのフラも感じられるということが、全て良い方向に向かっていく強みとなるし、姉妹都市いわき、湯本にしかできないこと、できる可能性があることだと考えています。その融合ができるならもっと強い強みとなります。</p>	
14	<p>福島県民割を使い、ここ数ヶ月で何度も湯本に泊まらせていただきましたが、なんというか旅にきた感じがなと。私も地元民として湯本はよく行きますが、その際は、湯本駅の隣に駐車してみゆきの湯の通りに行くか御幸山に行くか、さはこの湯に行くのに近場に停めるか。とにもかくにも行動範囲が狭いです。</p> <p>そして、この通りは観光客の方もメインで歩くかと思いますが、日常の人がいすぎてとても浴衣で歩く空気ではないです。また車がばんばん通行するため、そちらも雰囲気はそこなっています。気持ち的にはいわき駅前で浴衣で歩くのかという感じです。車から人へのコンセプトでしたので、歩行者天国を作るとか何かないでしょうか？</p> <p>また、湯本駅前を降りた時に、旅にきたという感じがなと。駅前が一番いい場所に道路があるのがなんだかなと。湯本駅を新しくしましたが、いい位置で写真を撮ろうとすると、タクシーが写ります。駅前に湯本の観光案内の看板がありますが、あちらも撮影しようとする道路上で撮影することになります。結局、駅を降りて知らない土地について目の前に道路とロータリーがあって、鶴の足湯に誘導されて、みゆきの湯の通りに行くというパターンかなと。街のス</p>	<p>温泉街の三函地区・吹谷地区周辺エリアにおいては、泊まる場所としてだけでなく、非日常を感じながら、観光客が楽しく浴衣でそぞろ歩きできる空間を形成することとし、魅力ある街並み空間整備事業を計画として位置付けています。</p> <p>湯本駅前については、御意見の様な課題もあることから、駅前の整備にあたっては、温泉とフラのまちの玄関口としてシンボリックな空間とし、乗換案内や地区内の店舗・観光情報等が取得できるような環境整備を検討する計画としています。</p> <p>本計画の各取り組みは、いわき湯本温泉を温泉観光地としてブランド化していく視点・戦略をもって具体的に</p>

	<p>ペースをわざわざ狭く狭く導く流れになってるかなど。湯本駅前降りて、何も知らない人が御幸山や金比羅様の方向には行かないです。</p> <p>また、宿泊した際、夜に旅館から別なお店に行く流れも少なかったです。結局、他の観光客と触れあう機会もないから旅にきた感も少ないし。なんだかんだで、こいと旅館さんの脇のローソンが誰かいるので安心できました。湯本に宿泊する度に毎回通っていました。逆に、湯本支所の方の通りは、旅館やホテルのロビーが外から見えて、旅にきた感じがあってよかったです。ただ湯本在住の人以外はみんな知らないのでは？あちらの通りはてくてく歩いて、浴衣で歩いてもいいなど。</p> <p>最後に、この計画の対象は誰なのでしょう。旅行にきた方が旅行を楽しんでくれてよかったですと思う街作りでしょうか？湯本ってこんな街だから、温泉に入るついでに知ってくださいということでしょうか？私は湯本が日本三古泉の一つということも最近まで知らなかったから、せっかく街作りするならいわき市民が自分の街にすごいがあると感じられる街になるといいなと思います。ハワイアンズやいわきFC、ほるるなどありますが、湯本の街はハブになればいいのでしょうか？ハブだけだと魅力がなくないかなど。わざわざ湯本に行く理由、ストーリーが必要じゃないかなど。いわき市民なら年に数回は湯本温泉に入らないととか、いわき市に来て湯本温泉に行っていないなんて片手落ちだぞとか。湯本温泉はちょくちょく行っているの、いい街になるのを楽しみにしています。</p>	<p>展開されなければならないと考えており、まちとしての統一感や連続性、エリアの魅力が発信される仕組みづくりを検討し、いわき市民が誇れるまちとなるよう努めます。御意見も踏まえ、【全体計画】に、今後の進め方について追加します。</p>
15	<p>・福祉について</p> <p>全国、福島県、いわき市、そして、この常磐地区も高齢者問題は深刻な状況です。常磐地区全体では、30,361人の人口に対して、10,311人、34%が65歳以上の高齢者となっております。</p> <p>いわき市の高齢者保健福祉計画に書かれた「いわき市基本理念」のうち、国において認知症施策推進大綱とあり、「共生」と「予防」の施策推進が閣議決定しているとあります。また、令和7年以降は、現役世代の減少により、介護人材の確保がより深刻になります。</p> <p>令和4年4月に湯本町浅貝のスーパーが閉店しました。関船町に移転し、上浅貝、宝海、日渡、三函、天王崎の多くの方々が「買い物弱者」になって困っています。生活する上で一番必要なのは「食」です。そして、買い物を通して挨拶や声掛け、自分で歩いて食べたいものを目で見て買い物すること、これが「共生」と「予防」に繋がります。</p> <p>高齢者や消費者の利便性を考えると、青果・鮮魚・精肉・惣菜と一つの場所で買い物をし、駅前での多世代が集う交流拠点をたくさんの方々が利用できるよう整備していくのが望ましいと思います。</p> <p>ぜひ、「買い物弱者」対策を官民一体で取り組んでいくよう考えていただきたいです。</p>	<p>本計画では、湯本駅前の交流拠点施設及びその周辺における導入機能の一つに、生鮮食品等の地場産品直売所などを位置付け、新規出店なども促しながら、訪れたい場所の形成に向けて検討を進めていく計画としています。「買い物ニーズへの対応」に係る御意見については、<u>地区の課題として捉えていましたが、本計画では未記載であったため、【全体計画】P3の「地区の現状と課題」に追加します。</u></p> <p>また、<u>多様な交通手段の導入など、楽しいお出かけが実現できる取り組みについて、検討を進めていきたいと考えております。御意見を踏まえ、【全体計画】P10の「湯本駅前街区再編・駅前広場整備事業」の文章、「整備コンセプト（案）」、及び【多世代が集う交流拠点施設基本計画】P11の「駅前交通広場の施設づくりの考え方」について修正します。</u></p>
16	<p>私は生まれてこの方、学生時代を除き、常磐に住んでおります。今回の常磐地区の再整備方針を拝見させていただきました。この素案はいったい誰が作ったのか非常に気になったのでありま</p>	<p>本計画の各取り組みについては、全体で一貫性のある考え方・デザインでまちを形づくることが不可欠であり、</p>

	<p>すが、常磐を愛し、湯本を愛する一市民として御意見させていただくとすれば、只一点であります。</p> <p>「景観づくり、まちづくりのプロフェッショナルを集めたクリエイター集団を結成し、その方たちに任せてみてはどうか」という事です。なんなら、福島出身、いわき出身でもすごいクリエイター、たくさんいますよね。おそらく、私も含めてですが、湯本の人たち（素人）が行政主導で集まり、ワーキングチームをつくったところで、結局生まれるのは「素人がなんとなく頑張った街の景観」で、これは外部の人から見たら非常につまらないものではないだろうかと考えます。また、行政側も人事異動で数年で再開発プロジェクトに携わった人はいなくなってしまいますし、私たち素人も、完成した「新たな湯本町」が散々な出来栄えだったとしても「素人が考えたものだからしかたがない」という逃げ道にもなってしまおうと懸念しております。そんなの、待っている側からしても、ワクワクしないですね。こうした懸念を最初からなくすには、やはり、よそ者でも、実績のあるプロ（一人ではなく、各分野に精通したクリエイター集団）にお任せして、我々素人や、行政の方たちには到底思いつかないような、「なるほど、そうきたか！」と思わせるようなアイデアを求めるべきなのだと考えます。</p>	<p>各取り組みは、いわき湯本温泉を温泉観光地としてブランド化していく視点・戦略をもって展開され、まちとしての統一感や連続性、エリアの魅力が発信される必要があると考えています。</p> <p><u>このため、専門家も交え、温泉観光地としての「まちのあり方・デザインの指針」となる戦略を策定し、この戦略に基づきながら各取り組みが展開される仕組みづくりを進めます。御意見も踏まえ、【全体計画】に、今後の進め方を追加します。</u></p>
17	<p>私がまず初めに意見したい点は、多世代が集う交流拠点施設基本計画に描かれている「機能配置・導線計画のイメージ」にあります。このイメージ図は、交通広場に対する緑道側の計画がかなりアバウトに描かれていると考えています。</p> <p>交通広場の方はどこにどれだけの車両が進入することができるのか？ということが、あのイメージ図からも明確にわかるのに対し、緑道側は具体的な図が描かれず、緑一色の中に茶色の道っぽいものが示されているだけになっています。交通広場は具体的な動線が見えているのに対し、緑道側は緑一色に描かれているだけのイメージを見ると、この計画が古い思想（モータリゼーション）のもとに描かれているのではないかなと推測してしまいます。</p> <p>内田市長から女子旅で来た首都圏の人が浴衣で歩くような雰囲気を作りたいとあるように、この機会に湯本地区では温泉街という資源を活かして、歩いて楽しい街を目指して事業を進めていくべきだと考えます。歩いて楽しい街は車による交通ではなく、今回の図であまり明確に示されていないような空間でこそ生まれるものではないでしょうか。緑道側の計画については、今後、事業を進める中で具体化していくと考えていられるかも知れませんが、現状のグランドデザインを元に事業を進めていくとすると、交通広場のみの整備がどんどんと進み、緑道側の計画はあまり具体化されず、曖昧で効果的でない空間が生まれてしまうのではないかと危惧しています。今後の整備方針を固める存在であるグランドデザインであるからこそ、明確な整備方針を示すことで、今回挙げられているコンセプトが達成されるような空間が創出されると考えます。</p> <p>また、もう一点意見したいポイントが、今回の議論を重ねている構成員にあります。現状の議論を行なっている構成員には、まちづくりに対する専門家が不足しているように感じます。私は大学院生として建築・まちづくりを専門に勉強していますが、そういった専門家の方々が見るま</p>	<p>湯本駅前の交流拠点施設と交通広場については、歩行空間を含め一体的なデザインの調整が必要となることから、本計画に記載のロードマップに示すとおり、同時期での整備を検討しています。</p> <p><u>御意見のとおり、本計画の各取り組みについては、全体で一貫性のある考え方・デザインでまちを形づくること</u>が不可欠であり、各取り組みは、いわき湯本温泉を温泉観光地としてブランド化していく視点・戦略をもって展開され、まちとしての統一感や連続性、エリアの魅力が発信される必要があると考えています。</p> <p><u>このため、専門家も交え、温泉観光地としての「まちのあり方・デザインの指針」となる戦略を策定し、この戦略に基づきながら各取り組みが展開される仕組みづくりを進めます。御意見も踏まえ、【全体計画】に、今後の進め方を追加します。</u></p> <p>なお、本計画では、「歩いて楽しい街の実現」に向け、駅前や温泉街において立ち寄りの機会や利用しやすい空間を創出しながら、回遊性の向上、滞留機会の増加に繋げる取り組みを進めていくこととしており、今後もいまだ</p>

	<p>ちの視点は、まちのステークホルダーの方々よりも高い位置にあると考えています。</p> <p>現地の方の意見も大事ですが、今後のまちづくりがどうあるべきなのか？という根本的で広義的な問いに対して意見を言える専門家の存在が必要ではないでしょうか？今からでも、ランドスケープデザイナーやアーバンデザイナーなどの専門家に介入してもらい、現状のものをたたき台とした議論を重ねる必要があると思います。そういった専門家の方々にも介入してもらった上で、先ほど挙げたような計画の曖昧な部分を解消し、交通広場と同等のイメージを書き上げていく必要があると考えます。</p> <p>今回示されている計画は、今後の湯本をどのようなまちにするのか？という骨格になるものだと思います。ハード面を大きく変える、変えられる今だからこそ、この計画によって観光客を集めたり、稼ぐことができるまちとなることを目指して、行政による的確なコーディネートと地域住民による積極的な介入、プロの視点による活発な意見が今後交わされていくことを期待しております。よろしくお願いいたします。</p>	<p>いた御意見も参考としながら、実現に向けて検討を進めていきたいと考えています。</p>
18	<p>観光に重きを置いた素案になっているようですが、新型コロナの影響含め現状の常磐地区に観光による人の呼び込みには限界があると思われる。実際に湯本駅前にお店を構えている方の話を伺うと、駅周辺の客の数は少なく、以前の様な賑わいは見込めないという意見もあります。</p> <p>常磐地区に観光や温泉といったものだけでなく、時代を見据えた「新しい価値」を付加する試みを目指してはいかがでしょうか。</p> <p>観光的な再開発も必要かもしれませんが、来る超高齢社会、そして将来的なデジタル社会に備え、Society5.0 とスマートシティ実現を見据えた複合施設とする方向性も作ってはいかがでしょうか。</p> <p>観光誘致より、地域振興も含め地元の人が地元を利用し、便利に暮らせるようにした方が、地方の未来には大切だと思います。</p> <p>そしてデジタル DX 時代に合わせ、移設予定の公的施設のデジタル化。また、情報発信としての VR・AR・XR の導入など。</p> <p>今までの観光にプラスして、こうしたデジタルや society5.0 の東北でのモデルケースとなれば、常磐に新しい価値を付け加える事が出来る。地方が生き残る社会を目指してみてもは。いわき市役所にも society5.0 を推し進める部署があります。そことの連携も視野に入れてみて下さい。</p>	<p>湯本駅前の交流拠点施設については、今後、事業可能性調査などを行いながら、具体的な仕様等の検討を進めていきます。その中では、御意見のような、デジタル技術を活用した公共サービスの具体的な導入に向けて、関係部署が連携し検討を進めていくこととしています。</p>
19	<p>・観光地としての温泉について（行政が温泉で稼ぐ賑わいを作り出すとは？）</p> <p>大衆浴場として、今回の街区の中に「みゆきの湯」があります。また、湯本には、「上の湯」があります。この2つがなくなり、民間の温浴施設ができることで、いわき市の抱えている課題が解決できるとは思えません。今の基本計画では、「いわき湯本温泉」は、「いわき市民の宝」であり、観光の中心、または根幹なるべきものを民間だけに任せているように見える。例えば、「新舞子ハイツ」の機能として、温泉があつて、食があつて、会議ができて、運動ができて、文化系のこともできて、情報発信して、宿泊もできる等、機能だけを考えれば、湯本駅前の交流拠点に</p>	<p>みゆきの湯や上の湯、さはこの湯といった本市の公衆浴場や温泉給湯事業のあり方については、現在、調査・検討を進めているところです。</p> <p>湯本駅前の交流拠点施設への導入機能「温浴施設」については、自由度の高い運営が望ましいという地域からの意見なども踏まえ、民間収益施設の一つの機能として、民間のノウハウを活用する計画とし、今後、公民連携事業の</p>

もあてはまります。この機能は、行政サービスを民間企業が委託を受け、管理運営をしています。そこに、湯本の場合は、商店街（既存店舗、新規店舗を含む）＋旅館＋観光の交通拠点（→21 森、→平、→勿来、→内郷、→遠野、→小名浜）の丁度中間に位置する。この湯本温泉で行政が稼ぐには、賑わい人口の増加、温泉使用の増量、入湯税の収入増が考えられる。これらを考慮しながら、湯本温泉の観光について本当の意味での公民連携を望む。

・公共施設再編とそれを駅前でする意味を考える

公共施設の老朽化による施設の効率化と複合化は大切であるが、それを駅前にもってくる意味を考えてほしい。現在、常磐地区の公共施設の利用者が年間 10 万人と聞く。しかし、市街地再生が完成し、運用開始の頃、またはその後は、間違いなく人口減少と共に利用者は減る。そこで、そうならないためにも街（地域住民、地域事業者）が使いやすい、地域住民だけでなく、市内の方々も使いたくなる機能（サービス）を考えなければならない。しかしそれが見えてこない。これまでの機能（駅周辺にあった方がいいもの）＋αをしなければ、駅前に持ってくる意味はない。なので、賑わいをつくるための新しい公共サービスを一緒に考えていきたい。

・全体を考える

この基本計画が決定すると同時期に、先導的基盤整備概略検討が始まると聞きます。

これは、公共空間のデザインを先導的に考えていくことでと理解しています。しかし、まちとは公共空間と施設とその機能（コンテンツ）が連動することでまちを創り上げてと考えれば、公共空間だけをすすめていくことは、まちの統一感がなくなったり、街のコンセプトが公共空間に引っ張られたり、制約されたりする可能性が起こり得る。まちの揺るがないランドデザインを創り上げ、ぶれることなく進めるためにも、デザイン会議なる上位の組織を作り上げるべきである。

・観光地の顔と駅前交通広場について

基本計画の中に、居心地の良い空間形成のために、車中心から人や公共交通中心の土地利用とある。さらには、湯本駅前には、来訪客が駅から降りた時に、観光地って良いよねって思わせる大事な正面玄関でもある。さらに公共交通は、湯本温泉が地域資源の中間にも位置し、観光交通の中心とも考えられる。さらには、高齢者が公共交通を使って、街（駅前）にくる仕組みも考えてあげなければならない。観光の顔と、公共交通の利便性、人に優しい居心地の良い空間など考えていくと、駅前に土地がいくらあっても足りません。限られた空間の中で、最も良い空間をつくりあげるために議論の余地があると考えられます。

・魅力ある街並み空間整備事業について

歩きやすい、歩きたくなる空間整備は必要です。さらには、整備された歩道空間での公共空間をつかった賑わいづくりも必要になってきます。過去に、街中テラス事業として、湯本駅前の通りで歩道空間が確保され実施しました。結論から申しますと、「街中テラス事業」は許可が下りましたが、テラス設置が困難でした。一方通行にして、歩道空間を確保すれば、沿道に賑わいが

可能性調査において官民対話を行いながら、事業手法などを検討することとしています。御意見も踏まえ、湯本らしい公民連携が展開されるよう、引き続き、地域の皆様と対話を進めていきます。

いわき湯本温泉は、本市の観光産業を支え、また牽引していく大切な場所と認識しています。温泉の特質・普遍性をきちんと認識し、健康など市民の利益にもつながるよう取り組みを推進することが重要であると考えられるため、【全体計画】P3の「地区の現状と課題」やP4の「目指す将来像」、P16の滞留拠点の「整備の方向性（案）」、【多世代が集う交流拠点施設基本計画】P11の民間収益施設（温浴施設）の「施設づくりの考え方（案）」について修正します。

駅前の交流拠点施設のサービスのあり方や運用等については、今後、地域や関係団体等の方々と意見交換などを行いながら、具体的な仕様等を検討することとなります。

公共空間のデザインの検討にあたっては、使い方を踏まえ検討することが大変重要になると認識しています。

御意見のとおり、本計画の各取り組みについては、全体で一貫性のある考え方・デザインでまちを形づくることが不可欠であり、各取り組みは、いわき湯本温泉を温泉観光地としてブランド化していく視点・戦略をもって展開され、まちとしての統一感や連続性、エリアの魅力が発信される必要があると考えています。

このため、専門家も交え、温泉観光地としての「まちのあり方・デザインの指針」となる戦略を策定し、この戦略に基づきながら各取り組みが展開される仕組みづくりを進めます。御意見も踏まえ、【全体計画】に、今後の進め方を追加します。

駅前街区再編の範囲や道路の配置等については、交流拠点への導入機能、公有地や低未利用地等の土地利用、権

	<p>必ず作れるものではないことを知っていて下さい。そうならないために、社会実験を何度も繰り返し、沿道に賑わいづくりが作り上げられる街並み空間整備にしましょう。</p>	<p>利の状況、さらには事業費、工事期間等を総合的に勘案し検討しているものです。その中で、駅前歩行空間の確保については、事業規模や公共交通の運用など、様々な状況も踏まえつつ、駅改札から交流拠点エリアへの空間において、人を中心とした滞留機能や動線を確保することにより、街への期待感、開放感、さらには高揚感が得られるよう、具体的に検討を進めていくこととしています。</p> <p><u>【全体計画】P10 及び【多世代が集う交流拠点施設基本計画】P14 のイメージ図について、駅改札の位置などを参考に記載します。</u></p> <p>ハード整備については、使い方を踏まえ検討することが大変重要であるため、魅力ある街並みの実現に向けては、道路空間や沿道空間の使い方について、地域住民やプレイヤー、警察等の関係機関などとも意見交換を進め、社会実験などを実施しながら進めていく考えとしています。</p>
20	<p>① 駅前再編計画に関して</p> <p>湯本駅前には小名浜を中心とした市内観光施設や、いわきFCスタジアムなどの興行施設とを結ぶハブ空港的な役割を通じて、「人が集まりやすい場所」という地理的な強みを持っています。目的地への一時的な経由地点としてではなく、滞在を踏まえた観光の拠点として、開けた雰囲気のある街づくりが不可欠です。</p> <p>具体的には、誰でも気軽に入りやすい案内施設の充実、Wi-Fi 完備のオープンスペースの拡充、立ち食い・立ち飲みスペース、常設のキッチンカースペース、遊具もふまえた駅前公園、カルチャー教室などの文化施設の設置等々など、あらゆる分野から、それぞれの年代のニーズに応じた、いわゆる多世代が集える「時間をつぶせて人がとどまりやすい場所」を提供できるかがカギとなってくると言えます。</p> <p>また、いわき湯本はやはり温泉地としての魅力も欠かせません。ネームバリューはかつてほどではありませんが、日本三代古泉の一つとして道後温泉、有馬温泉とならぶ「千年の泉格」を持つ名湯です。湯本温泉の平均温度が71.8度。他温泉地で見られるような高温の源泉を適温まで「冷やす」という工程で廃棄することなく、使える「量」として毎分5.5tの汲み上げた温泉をムダなく利用できます。弱アルカリ性で肌に優しく、PH値が8.1。(健康な人の動脈血がPH7.35~7.45) 温泉のPH値は血液のアルカリ性の数値に近いほど心地良く、効果もより感じることができることとされており、前述の通り湯本温泉の泉質は数値が近似値ということから相性</p>	<p>駅前が集客性や滞在性を高める空間となるよう、御意見も踏まえながら、具体的な整備について検討を進めていきます。</p> <p>湯本駅前の交流拠点施設や滞留拠点施設をはじめ、本計画では、地域資源である温泉を活用することとしています。</p> <p>御意見のとおり、その特質・普遍性をきちんと認識し、<u>健康など市民の利益にもつながるよう取り組みを推進することが重要であると考えられるため、【全体計画】P3の「地区の現状と課題」やP4の「目指す将来像」、P16の滞留拠点の「整備の方向性(案)」、【多世代が集う交流拠点施設基本計画】P11の民間収益施設(温浴施設)の「施設づくりの考え方(案)」について修正します。</u></p> <p>湯本温泉の泉質の良さの情報発信や、周辺の観光資源との連携などの御意見については、本計画に位置付ける</p>

<p>も抜群でバランスのとれた「温泉」としての評価が高いです。日本津々浦々温泉地は多々ございますが、このPH値をたたき出す温泉地はほとんどございません。PR活動としては着物でフラを踊るといご当地「フラ女将」もあるように、他にも馬の療養施設として「温泉」を利用している競走馬総合研究所なども（日本で唯一いわき湯本温泉だけ）隠れた名所であり療養には名馬クラスも訪れます。（気性がよければ触れさせていただけるのも嬉しいサービスです。）打ち出し方次第では重要な観光資源となりえる可能性を秘めています。</p> <p>「鶴の伝説」なども存在し、まだまだ「引き出し」が数多く点在する温泉地であると言えるでしょう。</p> <p>以上の点や、首都県からのアクセスもしやすいという点をも踏まえると「湯」にこだわった街の再編も併せて念頭に入れていただかねば、いわゆる「宝（資源）の持ち腐れ」だと言えるのではないのでしょうか。</p> <p>② 優先度の高い大切にしたい点として</p> <p>子育て世代にも憂慮した公共トイレ（授乳室などを併設した）の設置とインフラ整備。駅前緑地公園、御幸山公園へ訪れる子供たち（近所の保育施設等の園児）。</p> <p>しかしながら公共トイレは御幸山公園にあるのみで、その公園のトイレも老朽化が進み、遠足で足を運ぶ子供たちや観光客・地域の方たちが利用するには抵抗があります。駅に隣接するトイレもお世辞にも綺麗とは言い難いのでその点にも気を配っていただきたい。そういった気配りで交流人口の増大、町の品格やイメージも変わると思います。と、同時に安全および治安維持のために交番は設置すべきだとも感じます。</p> <p>前述の御幸山公園ですが、駅を降り立つと鬱蒼とした体裁の悪い公園というようなイメージが沸き立ちます。かつては公園の一角でいわゆる「婦人会のお母さん」たちが味噌おでんや焼き鳥を売っていて情緒ただよう風景がございました。整備も滞ることなくなされており、「子供を遊びに行かせても安心」という公園であったかと思えます。</p> <p>しかしながら、昨今では草木が生い茂り、駅前に聳え立つ桜の名所も忘れ去られるのではと懸念するほどです。子育て世代からすれば到底子供たちだけで遊びに行っておいでとは言えません。この再編で開発区画内に入るのであれば「お散歩コース」「ランニングコース」「遊具設備の充実」「アスレチック広場」「温浴施設の整備」など市民にも観光客にもおっ！と驚かれるワクワクするような公園へと再整備を実施して欲しいです。この公園は湯本駅を降り立つとすぐに目に入るいわば「顔」です。周辺インフラも踏まえて「行ってみたい」と思えるような「一山」になることを期待しております。</p>	<p>観光地域づくり事業を実施する中でも、参考とさせていただきます。</p> <p>公共トイレについては、本計画の交流拠点施設の施設づくりの考え方において、屋外からの利用や、子育て世代に配慮したトイレの配置を位置付けています。</p> <p>交番の設置など、地域の安全・安心の確保に向けた関係機関との協議については、地域と連携し検討を進めていきます。</p> <p><u>御幸山公園については、駅の正面に臨む立地特性を活かし、魅力ある空間の形成、また周辺も含めた回遊性向上に必要な機能やデザインなどについて、使い方や維持管理のあり方なども含め、検討を進めていきます。御意見も踏まえ、【全体計画】に、今後の進め方について追加します。</u></p>
<p>21 私には都市計画の専門家ではありませんので「常磐地区市街地再生整備基本計画」より素晴らしい案を提案できるわけではありませんが、駅前が大きく変わるイメージが湧きません。以前の狭苦しいバスロータリーとタクシープールは更に窮屈になるように見えますし、駅前が観光客で賑わうイメージも沸きません。そして、地域住民の暮らしが全く見えてこないことが何より気にな</p>	<p>駅前街区再編の範囲や道路の配置等については、交流拠点への導入機能、公有地や低未利用地等の土地利用、権利の状況、さらには事業費、工事期間等を総合的に勘案し検討しているものです。</p>

ります。駅前ロータリーの在り方について深く検討する必要があると思います。歩行者優先を目指すのであればロータリーの位置から再検討すべきです。その上で、地域内巡回バスなど高齢者がマイカーを持たずに暮らせる公共交通整備を実施すると、各地で実績のある「温泉パスポート」による観光客の温泉施設をめぐりにも利用可能となります。

例えば図書館スペース。少子化で空き教室が目立つ小学校との複合化の検討を行い「地域開放型小学校」とすれば、図書室の蔵書増と専属の司書配置が可能となります。同様に利用頻度の低い家庭科室や空き教室の地域開放も可能となるでしょう。駅前に新しい箱モノを整備するのが目的ではなく、地域内で老朽化した公共施設の再整備を目指すのであれば、必ずしも駅前に必要な物かどうかの判断があつていいと思います。

暮らしやすい町には住民の生活を主体にした空間が必要です。平日には子どもたちが走り回るような心地よい肌触りの広場と誰もが一息つけるようなベンチが配置された空間には、支所や図書館よりも定期的に行われる朝市スペースや都市型農園といった地域住民で賑わう施設が重要だと考えます。

将来の人口減少や少子高齢化に備えるのであるなら、小奇麗にまとまったどこかで見たことのあるようなテンプレートに沿った再開発計画書ではなく、この地域の実情を深く読み込んだオリジナルな計画ができると思います。

駅前の空間は、スムーズな移動や乗換えを実現する交通結節機能としての「利便性」や、魅力ある景観など充実した都市環境が有する「快適性」、歩車分離やバリアフリー、災害時の一次避難スペースの確保などによる「安全性」、地域の歴史、文化、風土等とも調和した、訪れる人々が愛着を感じられるような「地域性」などの機能を備えることが求められます。

これらの機能を、既成市街地における限りある土地の中で、適切に設定していく必要があります。

本計画では、湯本駅北側にある公共駐車場の移転や公共交通の乗り入れを中心とした交通広場の整備等により、「車から人中心への転換」や「公共交通の利便性・快適性の向上」、「車両の輻輳による危険な状況の解消」に取り組むこととしています。

駅前の歩行空間の確保については、事業規模や公共交通の運用など、様々な状況も踏まえつつ、駅改札から交流拠点エリアへの空間において、人を中心とした滞留機能や動線を確保することにより、街への期待感、開放感、さらには高揚感が得られるよう、具体的に検討を進めていくこととしています。

【全体計画】P10 及び【多世代が集う交流拠点施設基本計画】P14 のイメージ図について、駅改札の位置などを参考に記載します。

また、公共交通の充実については、将来のまちづくりにおいて、重要なものであると認識しています。「温泉パスポート」などのサービスと連携した交通手段などについては、【全体計画】P21 の「(参考) 常磐地区の市街地再生に向けたアイデア」へ追加します。

交流拠点施設については、「人と情報のたまり場」を基本コンセプトに、導入機能を検討してきました。

その中では、温泉やフラといった地域文化・歴史を発信したり学んだりする図書館の機能と温浴施設等との相乗効果や、カフェなどの民間収益施設との複合化による居

		<p>場所としての機能などが期待できるものとしています。</p> <p>また、御意見のとおり、地域住民の生活を主体とした空間の視点については、駅前交流拠点である「まち庭」での過ごし方をイメージしながら、居心地の良い空間が創出できるよう検討を進めていく考えとしています。</p>
22	<p>○はじめに</p> <p>常磐地区市街地再生整備の一環で湯本駅前周辺整備が本格的に動き始めました。</p> <p>私在家業に入り40数年が過ぎましたが当時から町の有志・名士たちが湯本再生のため多くの議論を交わし提言書を作成しておりましたが多くは絵にかいた餅で終わっておりました。しかしながら今、先人たちや私たちの夢をかなえるべく市街地再生が動き出しました。現在の湯本温泉については観光客も一時期の年間30万人を大きく割り込み約18万人に落ち込んでおります（コロナ前）。しかしながらこの度の駅前整備により個性ある湯本の街づくりが実現すればいわきの観光拠点としてこれまで以上の賑わいが取り戻せると思っております。</p> <p>更には「いわきFC」の活躍によりいわきグリーンスタジアムがJ3企画のスタジアムにグレードアップすると共に周辺の整備も決定しております。</p> <p>また、2024年の高校インターハイ全国大会会場がJビレッジと常磐地区（いわきのへそ）にあるいわきグリーンスタジアムに固定化され正にスポーツ都市いわきとして多くの交流人口も増えるのが容易に想像できますし更に周辺整備の可能性も多く秘めております。</p> <p>駅前から歩いて行ける温泉地は全国あまり例がありません。</p> <p>明日の常磐地区のためにもこの千載一遇のチャンスを官民一体となって成功させていかなければならないと思っております。</p> <p>○全体計画について</p> <p>今回の駅前整備についてはそれほど広い面積ではありません。</p> <p>特に目立つのが駅前ロータリー（バス・タクシー当公共交通機関）でせっかくの駅前広場がすべて占有されており他地区同様で現在と何ら代わりありません。</p> <p>駅東には旧6号国道のバス停がありますのでそれらを整備し湯本駅前乗り入れを少なくしたりタクシー待機も各社台数を絞ったり乗り入れルートを検討すれば駅前広場をもっと有効的に利用出来ると思っております。</p> <p>例としてのんびりできる広場に大きな足湯や温泉モニュメントの設置等。</p> <p>また、正面の御幸山公園は無駄な樹木を整理し桜などを植樹、散策路を整備し裏手の吹谷地区からも散策できるようにすれば観光客はもとより市民や子供たちの憩いの場として多くの方々が集えると思っております。</p> <p>駅周辺の整備については平のような高層ビルは必要なく2～3階程度の低層階で緑と温泉あふれる空間が湯本の雰囲気ピッタリかと思っております。そこへ温泉施設や個性あるカフェ・店舗・</p>	<p>湯本駅前の街区再編の範囲や道路の配置等については、交流拠点への導入機能、公有地や低未利用地等の土地利用、権利の状況、さらには事業費、工事期間等を総合的に勘案し検討しているものです。</p> <p>駅前の空間は、スムーズな移動や乗換えを実現する交通結節機能としての「利便性」や、魅力ある景観など充実した都市環境が有する「快適性」、歩車分離やバリアフリー、災害時の一次避難スペースの確保などによる「安全性」、地域の歴史、文化、風土等とも調和した、訪れる人々が愛着を感じられるような「地域性」などの機能を備えることが求められます。</p> <p>これらの機能を、既成市街地における限りある土地の中で、適切に設定していく必要があります。</p> <p>本計画では、湯本駅北側にある公共駐車場の移転や公共交通の乗り入れを中心とした交通広場の整備等により、「車から人中心への転換」や「公共交通の利便性・快適性の向上」、「車両の輻輳による危険な状況の解消」に取り組むこととしています。</p> <p><u>駅前の歩行空間の確保については、事業規模や公共交通の運用など、様々な状況も踏まえつつ、駅改札から交流拠点エリアへの空間において、人を中心とした滞留機能や動線を確保することにより、街への期待感、開放感、さらには高揚感が得られるよう、具体的に検討を進めていくこととしています。</u></p> <p><u>【全体計画】P10及び【多世代が集う交流拠点施設基本計画】P14のイメージ図について、駅改札の位置などを参考に記載します。</u></p> <p>また、駅前は、温泉地としての玄関口でもあることから、足湯や温泉モニュメントの設置などの御意見も参考</p>

	<p>お土産屋さん・飲食店等が出てくれば市民・観光客も多く訪れると思います。個性ある図書館は正に民間の英知を結集させなければならないと思いますし、支所機能の移転も計画されていますので、どこに配置するか再考が必要です（土日休みで平日は17時で終わり）。観光地の玄関口として悲願の駅前交番設置も計画にいらしてほしいです。</p> <p>○（仮称）常磐地区交流センター基本計画について</p> <p>関船体育館・常磐市民会館等の機能を活かした交流センターとのことですが、これこそ中途半端な箱作りにならないでしょうか？関船体育館は駐車スペースや待機スペースが無く、スポ少や多くの団体の大会には利用出来ない状況です。常磐市民会館も同じで更には1200名のキャパがあっても年間のそれほどの人数の利用は数えるほどしかありませんしバスも上がれません。</p> <p>そこで、湯本駅前の立地を生かした多機能ホール的なものを整備するのであればスポーツ関係はいずれ21世紀の森の方へ整備し、多機能ホールはキャパ200名程度の会議やコンサート、フラサークルの練習や文化サークルの練習、音楽サークル練習、そして発表の場として利用出来る施設で充分かと思えますし多くの方々が集えると思います。（大勢の利用はアリオスがあります）。公共施設の跡地に支所機能の移転もありかと思えます。</p> <p>以上、簡単で取り留めのないコメントとなりましたが今後悔の無いよう、次世代、その先へと繋がるような街づくりとなる事を切に願っております。</p>	<p>としながら、地区の特徴を活かし、魅力を発信できるような駅前空間となるよう検討を進めていきます。</p> <p>御幸山公園については、駅の正面に臨む立地特性を活かし、魅力ある空間、また周辺も含めた回遊性向上に必要な機能やデザインなどについて、使い方や維持管理のあり方なども含め、検討を進めていきます。</p> <p>交番の設置など、地域の安全・安心の確保に向けては、地域と連携し、関係機関との協議に向けて検討を進めていきます。</p> <p>交流拠点施設整備の範囲や規模、各機能配置などについては、今後、事業可能性調査での検討や権利者の方々との対話を重ねながら、検討を進めていくこととしています。</p> <p>御意見の建物の高さについては、本計画でも、周辺環境や景観に溶け込むよう、低層建築を基本として検討することとしています。</p> <p>本計画に記載の「カルチャー＋アクティビティ」機能については、スポーツ機能に特化しているものではなく、多目的な利用が可能な機能として位置付けています。</p> <p>交流拠点施設のサービスのあり方や運用等については、今後、地域や関係団体等の方々と意見交換などを行いながら、具体的な仕様等を検討することとなります。</p> <p>全市的なスポーツ機能の集約については、「いわき市公共施設等総合管理計画」に基づき、公共サービスあり方の検討なども踏まえながら、整理を進めていくこととしています。</p>
23	<p>先日、説明会に参加しましたが、とてもがっかりしました。確かに、湯本の開発に予算がついていろいろやっていただけるところはありがたいのです。でも、住民が置き去りにされているようにしか感じませんでした。コロナのせいかも知れませんが、会議の回数が少ない。けれど、話はかなり進んでいたり。</p>	<p>本計画については、地域関係団体及び県市関係部署で構成する「常磐地区まちづくり検討会」や「ワーキンググループ」などにおいて、意見交換を重ねて、検討を積み上げてきました。</p>

吹谷と駅前市の市営住宅を取り壊す時、「まだ何も決まってない。これから時間をかけて決めて行きましょう」ということで、勝手に決められることはないと思っていたのですが、結局一部のひとと役所とでどんどん決まってしまっています。「はっきり決まっているわけではない」と言葉では言っている、そうではないように思えます。湯本にある団体と決めれば住民と決めていると思っているのですが、その団体のメンバーが誰なのか分かる人はかなり少数ですし、話の進捗状況も誰も分かりません。

みなさんは、やってる「つもり」なのでしょうが、できてはいませんよ。進捗状況どころか、先日の説明会も開かれることを知った人はかなり少なかったようです。当日、係の方たちも思ったより集まってしまった、というような雰囲気でした。それと、この「パブリックコメント」。意見を出そうにもパソコンがあって検索魔ならばHP上の資料が見つけられるかもしれませんが、資料の公開方法が「さあ、見てください」という気がまるで感じられない、まるで見つてみろと言わんばかり。一応、形だけ整えておけば、後で「いや、やりましたよ」と言えるからでしょうか。不信感がつのります。

いつの間にか、支所が駅前に移転ですか。公民館も。なぜ駅前なのか全く理解ができませんが、それは別としても、ハザードマップは確認していますか。避難場所にもなるという話でしたが、うまく機能しますか。職員の方たちは常磐以外の方が多くいでしょうが、集まりますか。安心な場所でしょうか。現在の常磐公民館のある高台ならば、駅前よりは安心できると思うのですが。発表はできないけれど、もう、何かに決まってしまうのでしょうか。

報告会を、できるだけ沢山の人が参加できるように同じ内容でも何度も開いてください。きっと、みんなちゃんと聞きたいと思っています。自分たちが住んでいる街です。こんな言い方は失礼なのは分かっていますが、数年で異動してしまう職員の方たちよりもずっと思い入れが強いのです。

それと、なぜか湯本にフラが結び付けられているのですが、住民として喜んでるのはごく一部です。だいたいの方は「???」と思っています。湯本は、まず温泉です。フラは「ありき」にしないでください。焦点がブレブレになります。

駅前に設置される駐車場ですが、必ず道を渡らないといけませんよね。使い勝手が悪いように感じるのですが、そうはなりません。雨の日に「なぜこんなところに」と思わないようにしてください。

足湯が何か所かあるのですが、それと別に「手湯」を設けてほしいです。足湯はハードルが高いけれど、手湯ならばだれでも楽しめると思います。温泉に触れる場は必要です。

いくら予算がついたといっても、何でもかんでもは無理です。要所要所をきちんと整備することで、次につながるようにしてほしいのです。中途半端のオンパレード、こんなはずじゃなかったはやめてください。

また、今後も引き続き、具体的に取り組みの推進を図るうえでも、地域の皆様と対話を重ねながら進めていく考えとしています。

市民意見の募集については、広く情報がお伝えできるよう、市広報紙やホームページ、SNSを活用したところですが、各支所における資料の公開方法を含め、情報発信の方法については、改善に努めます。

公共施設の集約については、一つの機能や偏った機能の施設または施設群が単独で立地していた場合、まちへの立ち寄りがうまれにくく、また、過度に車に頼ってしまうところがあるため、地域経済への波及や健康の増進、効率的なインフラの実現に向けては、コンパクトなまちづくりが重要と考えています。湯本駅前については、鉄道やバスなどの交通結節点であり、地域住民をはじめ観光客が利用する、まちの玄関口となっています。そのため、今後の急速な人口減少や超高齢社会の到来なども踏まえ、駅前を単なる通過場所ではなく、地域住民も含め、多くの立ち寄りや交流が生まれる場所とすることとし、公共機能と民間機能を備えた交流拠点形成の計画としています。

また、計画に記載のとおり、浸水想定深以上のフロアについては、地域住民や帰宅困難者等の避難場所として提供する考えとしています。

交流拠点施設への導入機能(案)については、本計画で一度決定し、その後の、事業可能性調査などのステップへ進む計画としています。

駐車場からは、歩行者動線の安全性・快適性を確保し、交流拠点施設の敷地内にも駐車スペースを設置するなど、歩行が困難な方にも配慮する計画とする考えとしています。

		<p>「手湯」については、訪れた方が気軽に温泉に触れられる機会を創出できるものであり、今後の交流拠点施設や湯本駅前緑地等の具体的な検討において参考とさせていただくとともに、【全体計画】P21の「(参考)常磐地区の市街地再生に向けたアイデア」へ追加します。</p>
24	<p>住まいは県外であり、趣味で鉄道旅をしているため、多くの街並みに触れてきました。そうした中で、今回の素案でいうところの「5つの方針」に基づく「9つの取り組み」に中途半端な印象を受けました。</p> <p>特に違和感を感じたのは、駅前から「温泉」と「フラ」を感じつつ、魅力ある街並み空間整備事業と言っておきながら、車両が駅前ロータリーに出入り可能としているところです。田舎ですから「クルマ社会」であることは否定できませんが、車両の出入りを全くさせない、若しくは、車両の出入りは公共交通機関のみとするなどの検討をしてほしいと思います。</p> <p>ほかの街並みとは違うものを作っていかなければ、人口減少していく日本の観光客を取り込むことは難しいと思います。私は、他の都市と差別化していくことがいわき市の未来に必要なことだと思います。</p> <p>昨年6月に国土交通省都市局まちづくり推進課で発表されている資料なども参考にされていることと思いますが、民間の空間デザイナーの方に依頼するなどして、おおもとから再検討することを強く望みます。</p> <p>「フラシティいわき」にふさわしい基本計画となることを期待しております。</p>	<p>湯本駅前の街区再編の範囲や道路の配置等については、交流拠点への導入機能、公有地や低未利用地等の土地利用、権利の状況、さらには事業費、工事期間等を総合的に勘案し検討しているものです。</p> <p>駅前の空間は、スムーズな移動や乗換えを実現する交通結節機能としての「利便性」や、魅力ある景観など充実した都市環境が有する「快適性」、歩車分離やバリアフリー、災害時の一次避難スペースの確保などによる「安全性」、地域の歴史、文化、風土等とも調和した、訪れる人々が愛着を感じられるような「地域性」などの機能を備えることが求められます。</p> <p>これらの機能を、既成市街地における限りある土地の中で、適切に設定していく必要があります。</p> <p>本計画では、湯本駅北側にある公共駐車場の移転や公共交通の乗り入れを中心とした交通広場の整備等により、「車から人中心への転換」や「公共交通の利便性・快適性の向上」、「車両の輻輳による危険な状況の解消」に取り組むこととしています。</p> <p>また、駅前の歩行空間の確保については、事業規模や公共交通の運用など、様々な状況も踏まえつつ、駅改札から交流拠点エリアへの空間において、人を中心とした滞留機能や動線を確保することにより、街への期待感、開放感、さらには高揚感が得られるよう、具体的に検討を進めていくこととしています。</p> <p>【全体計画】P10及び【多世代が集う交流拠点施設基本計画】P14のイメージ図について、駅改札の位置などを参考に記載します。</p> <p>御意見のとおり、本計画の各取り組みについては、全体</p>

		<p>で一貫性のある考え方・デザインでまちを形づくること が不可欠であり、各取り組みは、いわき湯本温泉を温泉観 光地としてブランド化していく視点・戦略をもって展開 され、まちとしての統一感や連続性、エリアの魅力が発信 される必要があると考えています。</p> <p><u>このため、専門家も交え、温泉観光地としての「まちの あり方・デザインの指針」となる戦略を策定し、この戦略 に基づきながら各取り組みが展開される仕組みづくりを進 めます。御意見も踏まえ、【全体計画】に、今後の進め方 を追加します。</u></p>
25	<p>私は、駅前でお店を営業しております。それ以前は、大正元年より湯本町三函地区で初代が創 業し、約 110 年湯本町で続けています。今回の再生整備についてですが、天王崎市営アパート跡 地のみと考えておりましたが、いつの間にか範囲も規模も大きくなり、自分の所まで関わること になり、正直驚いています。まちづくり団体の会議や地権者宛の勉強会に出席していますが、ど んな風が変わっていくのか、頭の中に描けていません。全ての事が初めての経験で追いついてい くことが難しいです。</p> <p>○今回の基本計画について</p> <p>全体的に「みんなのたまり場」を目指していることは理解できますが、この計画のスタート時 と 1 番違ってしまったのが、近隣で営業していたスーパーの閉店です。街中に買い物難民が大勢 います。この「たまり場」に日常生活の大事な所として、食料品を販売する場を入れてほしいで す。藤原地区、磐崎地区等で農業をしている人から、規格外となり出荷できない野菜が届きます。 細かったり、ちょっと虫が喰っていたりと少々問題はありますが、食べるには大丈夫です。捨て てしまう前に、地産地消です。みんなが喜ぶ場所となります。常磐地区の一体感も生まれるチャ ンスだと思います。</p> <p>市の施設をメインにしないで、商店街がキラキラできるようにして欲しいです。市役所は土・ 日・祝日はお休みです。銀行も同じです。現在の土・日は人がほとんど通りません。営業してい る店も 3 件しかないのが実情です。夢のような観光客 60 万人を目指す計画が実現できると思 えません。湯本の宝、温泉をもっと大事にすること、人間の体に最高の成分を含んでいる湯本温 泉の効能等をもっと全国的に PR して、健康面でも活かすべきだと思います。先人達が守ってき た温泉を見直して、やはり観光の 1 番は、他には無い湯本温泉です。駅の中の温泉はありますが、 市役所と一体化した温泉はないのでは？</p> <p>人が集まる場所は、行って楽しい、買い物をして美味しいものを食べる、ゆっくりとお風呂に 入って自然治癒力を高めるところです。健康寿命が問題です。これから、高齢化社会がやってき ます。この基本計画も実現するのが 10 年先だとしたら、私達、戦後生まれの世代が（1 番人口</p>	<p>地権者をはじめとした関係権利者の皆様とは、事業や 再建に対し不安を感じる事が無いよう、引き続き、勉強 会や個別面談を重ねていきます。</p> <p>湯本駅前の交流拠点施設及び周辺整備にあたっては、 地域住民や観光客など様々な方が利用する場所とし、御 意見のとおり、「たまり場」の中に生鮮食品等の地場産品 直売所など新規出店なども促しながら、訪れなくなる場 所の形成に向けて検討を進めていく計画としています。</p> <p>交流拠点施設の機能の配置は、引き続き、権利者の方々 や関係機関との協議を重ね、いただいた御意見にも留意 しながら、商店街や交流拠点施設などに人の立ち寄りや 滞留を促す駅前となるよう、具体的な検討を進めていき ます。</p> <p>いわき湯本温泉は、本市の観光産業を支え、また牽引し ていく大切な場所と認識しています。御意見のとおり、温 泉の特質・普遍性をきちんと認識し、健康など市民の利益 にもつながるよう取り組みを推進することが重要である と考えられるため、【全体計画】P3 の「地区の現状と課 題」や P4 の「目指す将来像」、P16 の「施設づくりの考 え方」、P16 の滞留拠点の「整備の方向性（案）」、【多世 代が集う交流拠点施設基本計画】P11 の民間収益施設(温</p>

	<p>の多い) 80 歳代になっています。その時に「あっ、良い街になった」と実感できる湯本町であってほしいです。</p>	<p>浴施設)の「施設づくりの考え方(案)」について修正します。</p> <p>また、本計画の各取り組みについては、全体で一貫性のある考え方・デザインでまちを形づくることが不可欠であり、各取り組みは、いわき湯本温泉を温泉観光地としてブランド化していく視点・戦略をもって展開され、まちとしての統一感や連続性、エリアの魅力が発信される必要があると考えています。</p> <p>このため、専門家も交え、温泉観光地としての「まちのあり方・デザインの指針」となる戦略を策定し、この戦略に基づきながら各取組みが展開される仕組みづくりを進めます。御意見も踏まえ、【全体計画】に、今後の進め方を追加します。</p>
26	<p>常磐支所へ「常磐地区市街地再生整備基本計画」(素案)をいただきました。</p> <p>まず第一に私は71歳ですが、眼鏡をかけても文字が細かくて読みにくいですね。</p> <p>先日、ラトブに行ってきました。1階のお店が撤退し、現在は椅子とテーブルがたくさんあり、皆さんがおしゃべりをしたり、お弁当を広げたり、学生はスマホをしたり、本を広げたりと、駅前こんな場所があっても良いのではないのでしょうか。これからは、益々高齢者が多くなる時代です。いずれは誰もが通る道。高齢者の人達がお風呂に入って、おしゃべりをして、そして買い物出来る場所があれば良いのでは。お土産や地元の野菜、日常の雑貨等。(もちろん食品もです。)ここに来れば、何でも揃うと思うような店舗があれば良いのでは。</p> <p>JR湯本駅の2階に一度行きましたが、結局2階へ上がるのは高齢者には無理ですね。観光に取り組むのもとても大事ですが、駅前の検討を是非お願い致します。</p>	<p>湯本駅前の交流拠点施設及び周辺整備にあたっては、地域住民や観光客など様々な方が利用する場所とし、生鮮食品等の地場産品直売所など新規出店なども促しながら、訪れたい場所の形成に向けて検討を進めていく計画としています。</p> <p>御意見のとおり、高齢者の方々にも楽しく駅前で過ごしてもらえるような場所にもなるよう、今後、具体的な検討を進めていきます。</p>
27	<p>私は、常磐に住んでいる37歳の主婦です。</p> <p>夫と子供4人を育てながら、共働きをしています。</p> <p>義両親は、運転しません。また、近くの多くのお年寄りの話を聞いていると、買い物が大変だと言っています。銀行には月3~4回行くそうですが、その時に駅前で色々買い物ができればいいのにと。</p> <p>特に、湯本駅前コンビニでは、多くのお年寄りがお惣菜を買っているそうです。実際、義母も駅前の喫茶店前で販売しているのを買ってきています。また、タクシーを使うので、湯本の町も周遊バスがあるといいのにと。まだ70歳。でも、この先5年後、10年後が不安です。皆さんの願いをコメントいたします。</p>	<p>湯本駅前の交流拠点施設及び周辺整備にあたっては、地域住民や観光客など様々な方が利用する場所とし、生鮮食品等の地場産品直売所など新規出店なども促しながら、訪れたい場所の形成に向けて検討を進めていく計画としています。</p> <p>また多様な交通手段の導入など、楽しいお出かけが実現できる取り組みについて、検討を進めていきたいと考えております。御意見を踏まえ、【全体計画】P10の「湯本駅前街区再編・駅前広場整備事業」の文章を修正します。</p>
28	<p>先日の市民説明会に参加し、思ったことを述べます。</p>	<p>本計画に位置付ける9つの取り組みに関する概算事業</p>

- ・この計画の総予算額は、いくらかということ
 - ・公有地活用エリアが地域住民の生活利便性を高める日常サービスの誘導を図るエリアとありますが、日常サービスの誘導を図るエリアとは、どのようなエリアですか。イメージでできるよう、具体的に教えてほしい。
 - ・この素案にあるように公共施設の規模を縮小して駅前に移転した場合、どのようなスポーツをどのような年代の市民が利用すると想定して、体育館を半分の面積にすると計画したのか。
 - ・見込まれる維持管理費、利用者人数、稼働率、収支など具体的な数字を知りたい。
 - ・駅前に多くの思いを込めて建物や公共施設を集約し過ぎて、市民サービスや観光客のサービスがそれぞれ中途半端にならないか心配。説明会話を聞いて、「二兎追うもの一兎も得ず」という言葉が浮かんできました。そうならないためにも、市として、この再生整備でメインに据えるのは、どちらかを明確にすることが重要で必要なことと考えます。
- 人が減るから市の施設をはじめ、観光客対策も削減縮小するのか、市民は減少するが、観光客を倍増して賑わいを生むのかのような明確な市の思いが伝わる計画になってほしいと思います。
- また、いわき市はスポーツによるまちづくりを宣言しています。それに対する施策は、この再生整備基本計画には含まれていないと思いますが、常磐地区のスポーツによるまちづくりは、どのような計画になっていますか。

最後に説明会で話をされた方が「説明会で行われているこの場所には3つの建物があります」ということを話されました。しかし、市役所の方々には見えていなかったのでしょうか、あそこには4つの公共施設が建っています。何故見えなかったのか不思議です。

費については、現時点で約80億円程度を想定していますが、今後の社会経済情勢の変化や、具体的な検討の進捗により、変更となるものです。

公有地活用エリアは、現在の市民会館等の敷地であり、公共施設再編後の公有地の利活用として、地域住民の生活利便性の向上につながる医療や福祉、商業等の日常サービス施設の立地誘導(民間開発)を図るエリアとしています。

本計画に記載の交流拠点施設の「カルチャー＋アクティビティ」機能の多目的施設については、体育機能に特化しているものではなく、比較的大規模な会議や講演会や演奏などの発表の場のほか、卓球やバドミントンなどの軽スポーツ等の活動や、他地区の多目的施設の状況なども踏まえ、規模感を検討しています。

なお、交流拠点施設のサービスのあり方や運用等については、今後、地域や関係団体等の方々と意見交換などを行いながら、具体的な仕様等を検討することとなります。

本計画の参考資料では、規模感から想定される建設費までの算定となっており、今後の事業可能性調査の中で、維持管理費や運営費を含めたライフサイクルコストを算定することとなります。

また、利用人数や稼働率などについては、今後、地域の皆様や民間事業者と対話を行いながら、検討を進めていくこととなるものです。

本計画では、湯本駅前だけでなく、温泉街における取り組みを含め、市民や観光客へのサービスを提供する計画としております。各取り組みは、いわき湯本温泉を温泉観光地としてブランド化していく視点・戦略をもって展開され、まちとしての統一感や連続性、エリアの魅力が発信される必要があると考えています。

このため、専門家も交え、温泉観光地としての「まちの

		<p><u>あり方・デザインの指針」となる戦略を策定し、この戦略に基づきながら各取組みが展開される仕組みづくりを進めます。御意見も踏まえ、【全体計画】に、今後の進め方を追加します。</u></p> <p>本市では、「いわき市スポーツ推進基本計画」策定し、「スポーツでつながる いわき」を基本方針に、健康で豊かなスポーツライフの実現とスポーツとともに生きるまちづくりを推進することとしています。</p> <p>御意見のとおり、公有地活用エリアには4つの公共施設が立地しています。説明会では、駅前の交流拠点への集約・複合化の検討対象施設として、常磐支所のほか、関船地区にある3つの施設を説明させていただいた次第です。ご理解くださいますようお願いいたします。</p>
29	<p>1) いわきバッテリーバレー構想もあるので、湯本の路線バスや、宿泊施設での旅客輸送で使用されている車両等にEVを導入したり、駐車スペースにデスティネーションチャージを設置して欲しい。</p> <p>2) 湯本駅周辺は、道が細いところが多いのでそういうところをもっと整えて、車で行きやすくして欲しい。</p> <p>3) 湯本市内に観光客が使えるフリーWi-Fiを整備して欲しい。</p> <p>4) 温泉を活用した地熱発電(バイナリー発電)を導入し、普段の売電収入を得ると共に、災害時の電力確保ができるようにして欲しい。</p>	<p>脱炭素社会の実現や地域のレジリエンス強化など、自然エネルギーや水素エネルギー、蓄電池等を活用したまちづくりは大変重要なものと認識しています。</p> <p>本計画では、駐車場整備においては電気自動車充電スタンド設置の検討、湯本駅前の交流拠点施設整備においては地球環境への配慮として、省エネ及び再エネの積極的な取り組みや、地域資源である温泉の活用などの検討などを位置付けております。</p> <p><u>宿泊施設送迎用車両等のEV化やエリア全体でのフリーWi-Fiの整備の御意見については、【全体計画】P21の「(参考)常磐地区の市街地再生に向けたアイデア」へ追加します。</u></p>
30	<p>私はいわき市在住で常磐地区の事業者の関連施設である渡辺町のアウトドア施設にて従事しております。また、温泉、ハワイに関する資格などを有し、旅行が趣味であることから、本計画に興味を持ち常磐地区の発展を願い下記の通り意見申し上げます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 湯本町現状とロードマップについて <p>コロナ禍以前より観光人口が減少していることは明白で、最近の旅館廃業では白鳥温泉の喜楽苑が「震災関連倒産」といわれております。今後のロードマップを確認すると10年後ごろの供用</p>	<p>湯本駅前の交流拠点施設整備計画は、多くの権利者との調整が必要となる街区を再編する基盤整備や、施設整備の手続き等を踏まえ、概ね10年後ごろの供用となるロードマップとしております。御意見のとおり、目まぐるしく変化する社会情勢の中では、決めすぎずに、段階的に検証と改善を繰り返しながら事業を進める必要があると認</p>

を目標としていますが、再開発は急務であり大半の計画を5年での供用開始を目指すべきと考えます。上記の理由としては、昨今の社会情勢が目まぐるしく変化しており、100年に1度と言われている社会情勢を大きく変える出来事（ブラックスワン）は5年おきにやってくるのではと、考えられる状況に変わってきているためです。上記理由は、株式会社NSグループ（ホテル等運営会社：東京都新宿区）荻野勝郎社長が昨今の社会情勢を分析したコメントで再開発事業にも反映できると考えました。

・市街地再生の目標と方針と滞留拠点について

「温泉とフラを活かした賑わい・交流の源泉づくり」はいいテーマではありますが、一方で抽象的であると感じます。具体的な像を提示することが必要であると思います。

特に滞留拠点整備事業はトコナツ歩兵団のイメージパースかと読み取れますが、富士急ハイランドの元企画担当者である団長の力が十分に発揮されていないと感じます。

もっと独創的なアイデア、施設ができると考えます。

・魅力ある街並み空間整備事業について

上記の温泉とフラに関連し、街並みはここにしかない温泉観光地を目指すべきと考えます。和風で今までの温泉街というのは飽和状態です。草津、箱根、別府のようにすでにイメージが定着し、今から整備をしても二番煎じに終わるのではないかと感じます。

そこで思いっきり振り切って、日本のハワイ化をすべきではないでしょうか？湯本駅の駅舎から出ると目の前に広がるハワイの街並みとヤシの木、そこに足湯という違和感で観光客を惹きつけ、地域のアイデンティティになると感じます。草津温泉のようにしたいと市長のフェイスブックコメントを目にしました。湯畑周りの街並みをイメージしているかと存じますが、湯本温泉の強みを活かしたランドマークを作ってみるのもいいかと思えます。いわき湯本温泉は全国屈指の湯量を誇り、毎分5.5トン噴出します。

そこを活かし、100人は入れる大きい足湯（公園の噴水、水浴び広場をイメージ）を整備しその周りにお土産ショップを作るのはいかがでしょうか。

・民間投資について

現在、いわき市の観光メッカであるスパリゾートハワイアンズは、集客力が下がっていることは明白で、2019年には120万人に落ち込みコロナ禍によって、さらに落ち込んでいます。そこでハワイアンズに新たな脅威をあてがうことで、ハワイアンズを刺激し、集客力向上と湯本温泉の強化を図れるのではないかと考えます。

具体的には

- ① 白鳥温泉喜楽苑の星野リゾート（長野県軽井沢）誘致。
- ② 駅前温浴施設に株式会社温泉道場（埼玉県比企郡）の温浴施設を誘致を提案します。

① は廃業した温泉宿の再生だけでなく、町を巻き込んだ再生をすることが得意な企業であり、

識しています。

御意見のとおり、温泉とフラという抽象的なテーマから、全体で一貫性のある考え方・デザインでまちを形づくることが不可欠であり、各取り組みは、いわき湯本温泉を温泉観光地としてブランド化していく視点・戦略をもって展開され、まちとしての統一感や連続性、エリアの魅力が発信される必要があると考えています。

このため、専門家も交え、温泉観光地としての「まちのあり方・デザインの指針」となる戦略を策定し、この戦略に基づきながら各取り組みが展開される仕組みづくりを進めます。御意見も踏まえ、【全体計画】に、今後の進め方を追加します。

湯本温泉の強みを活かした滞留拠点整備のアイデアや提案事例、多くの企業との対話の必要性などの御意見も参考としながら、魅力ある湯本温泉街の形成に向け、引き続き検討を進めていきます。

	<p>宿を目的にした観光客が多くいます。自身も多く利用し、コロナ禍でもバスツアーなどが多く組まれています。</p> <p>② は埼玉県ときがわ町の昭和レトロな温泉やお風呂カフェを展開、アクセスしづらい場所でも若い客層を多く集客しています。自身も利用することが多く、ビジネス展開がうまく感じます。地域活性化も得意としている企業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他 <p>以上の意見については、私自身の旅行などを通し、他の施設等を見たうえで意見させていただきました。今後の詳細を詰めるうえでは、担当の方にも全国各地を視察したうえで策定していただきたいと存じます。</p> <p>また、今後市をけん引する若手の意見なども取り入れていただければ幸いです。地域のイノベーションは「若者・よそ者・バカ者」といいますので、さまざまな企業に声をかけ、湯本温泉が活性化していくことを願います。</p> <p>よそ者は上記に挙げた地域を巻き込むことが得意な企業、バカ者は奇抜な発想で大ヒットを飛ばしたトコナツ団長であると考えます。日本でいわき市だけ、どこにもない温泉街、新しい温泉街を作っていただきたいと存じます。</p> <p>最後に、ご担当者皆様のこれからのご活躍をお祈り申し上げます。</p>	
31	<p>駅前エリアについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在いわき市が各所と連携して行っている「パークアンドライド」の事業について、カーシェアリングサービスの拡充などを駅前で行うことで、いわき FC のイベントの際の移動手段や市内観光につながると考えられる。 ・車中心から人中心とするならば、駅前で車を降りて市街地を歩く魅力づくりが必要であると感じる。現段階では駅前付近に公共駐車場が少ないことや、駅前で降りることへのメリットが少ない。 <p>商店街・温泉街エリアについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エリアには足湯など「温泉街」を肌で感じるができるスポットはある一方で、目的地によっては歩くという手段が取らないほうが良いこともありえる。移動手段として、市街地周遊バスの設置やレンタサイクルなどを提案する。 ・空き店舗、空き家について、物件と出店者とのマッチングを図るため空き家サイトの活用や、SNS を使って広く全国から募ることもいいのではないかと思う。 ・夜間景観づくりについて、全体にも言えることだが「フラ」のなかに「温泉街」が存在するコンセプトなのか逆なのかによって景観づくりも変わってくるのではないか。温泉街では「温泉」のみ感じるができるのか、景観イメージがしにくい。もし「温泉」だけのイメージであるなら、よくある一般的な温泉街であると感じた。他地域での差別化を図るには「+フラ」ができる常磐地区ならではの景観イメージがつけられると思う。 	<p>湯本駅前における交通モビリティの活用に関する御意見については、今後の交流拠点施設に関する整備検討において参考としながら、地区内や市内観光の回遊性に繋がる取り組みとなるよう検討を進めていきます。</p> <p>まちの賑わいの創出に向けては、まちなかを訪れた方々に回遊してもらうことが必要であることから、まちなかでの立ち寄りや滞在性を高められるよう、各取り組みを推進する計画としています。</p> <p>また、御提案いただいた様々なアイデアについても参考としながら、今後具体的な取り組みの検討を進めていきます。</p>

	<p>・歩きたくなるまちづくりが目標にもなると思うが、交通量・道の広さと歩行空間の現実性が薄いように感じた。社会実験の一環として休日の歩行者天国や使用許可・占有許可などを得たうえでの道路に出店などやってみることも提案として考えた。</p> <p>総合的なアイデアについて</p> <p>・街中周遊できる公共バスの設置（温泉・旅館・ハワイアンズ・ほるるなど） →観光客向けに観光地として推していきたい施設などを回る周遊バスを提案する。定額制にすることでわかりやすく、街歩きのきっかけにもなると考えられる。</p> <p>・「フラ」にこだわりすぎていると感じる →映画「フラガール」をはじめとした各種メディア化によって観光客が印象に残るのはハワイアンズであって、湯本温泉街へのイメージが薄いのではないかと個人的に感じる。また、昔から「フラ」にこだわりすぎて新しいことが進んでいないとも思うので、これまでの「フラ」のイメージと差別化をするための新しい「フラ」イメージを商店会の方々などで作ってみてはどうか。</p> <p>・コンセプトがわかりづらい →交流拠点をただ新しく作るのではなく、常磐地区のイメージを取り入れ、観光客でも気軽に入れるような雰囲気づくりが必要であると感じる。</p> <p>・観光サイト・SNSについて →いわき市の観光サイトが乱立しており、情報量によっては集約した方がわかりやすいのではと思う。 →発信のために SNS についてはターゲット層によっては市内の高校生や大学生など、いつも大人が向いているわけではないというケースもあると思う。</p> <p>・いわき FC について →いわき FC に人気が出ているなかで連携し、交通まちづくりや一体となった取り組みを積極的に行うべきだと考える。アイデアとして駅前でパブリックビューイングを行う、FC の情報をまとめたブースを駅前に設置するなどが挙げられる。マスコットもできて、これからさらに躍進するいわき FC を地域ぐるみで応援する一種の町おこしも常磐地区だからこそできることではないかと思う。</p>	
32	<p>○駅の真ん前は歩く人過ごす人のための広場に 駅のすぐ前は車両（公共交通を含む）の乗り入れができない、人々が過ごすことができる本当の「広場」にしてほしいです。</p> <p>私たちが車で移動するとき、目的地のできるだけ近くに車を止め、用が済んだらまっすぐ帰ります。例えば夕食の買い物をするとき、大型スーパーの駐車場に止め、買い物が済んだら、車でまっすぐ家に帰ります。途中で気になるお店があっても、ちょっと車を停めて、中に入ってみようとは思わない、車に乗っている時はそれがとても手間だからです。</p> <p>私たちが街を歩く時、ふらっとお店に寄って予定していなかったものを買ったり、喫茶店でコ</p>	<p>湯本駅前の街区再編の範囲や道路の配置等については、交流拠点への導入機能、公有地や低未利用地等の土地利用、権利の状況、さらには事業費、工事期間等を総合的に勘案し検討しているものです。</p> <p>駅前の空間は、スムーズな移動や乗換えを実現する交通結節機能としての「利便性」や、魅力ある景観など充実した都市環境が有する「快適性」、歩車分離やバリアフリー、災害時の一次避難スペースの確保などによる「安全</p>

ーヒーを飲んだりします。そんなその場の思い付きの活動を自然と促すようなまちのデザインにすることで、仕事や学校や日常生活といった必要な活動以外の、任意の活動が増え、小規模なまちの商店や飲食店がうるおい、地域のコミュニティが活発になり、街を豊かにしていくのだと思います。

便利とは目的を効率的に最短距離で達成できるということで、楽しく生き生きとした豊かな人生とは対極にあるものと思います。バスにしろタクシーにしろ一般車両にしろ、駅のすぐそばに降りることができるなら、それはとても便利かもしれませんが、街を豊かににはしませんし、私たちの生活を豊かにしません。

高齢の方や障害者の方の為に駐車場を施設の近くに置いたり、バスやタクシーのロータリーを駅の近くに置いたりするのはそういった人たちにとっても、街を楽しむ機会を奪っていると思います。そんなことよりは、いたるところにベンチを置いたり、歩道を広くして段差を無くし、車いすでも移動しやすいようにする。車と歩行者をできるだけ分離して、目の見えない方にも歩きやすいようにする。必要な場所にはエレベーターやエスカレーターを設置する。そういったことの方が、歩行が困難な方にも嬉しいはずです。

駅は交通結節点というけれども、乗り換えだけのまちになってはいけません。JRやタクシー会社、バス会社にとっても、乗り換えに便利なのが乗客数を増やすわけではないということをわかってもらわなければなりません。駅前を、そこを歩き、過ごす人の為の広場にして、まちが豊かになり、湯本駅前に来たいと思う人がたくさん増えれば、公共交通の利用者も増えます。公共交通の事業者の方にはそこをしっかりと説明して、未来に向けて一緒に豊かな街の姿を描いてもらうことが必要です。

○10年先のその先を見据えた計画づくりを

支所を駅前に作る必要性は何でしょうか？支所を集客装置として考えせつかく駅前に作るなら、もっとまちに開かれた楽しい支所である必要があります。たとえば、支所に用事があってきた人が、その道すがらにフラのレッスンをしているところを見られる。そして自分もやってみようかなと思う。たとえば、日帰り入浴施設の道すがらに支所の窓口がある。困ったときに相談できる窓口があることを知って支援につなげる。

そういう風に日常や楽しみの機能、公共サービスの機能が境界無くあいまいに地続きになっていけば、人々が自然に人やモノ情報と交わり、選択肢が広がり、安心して豊かな生活を作ることができると思います。

また、持続可能なまちにしていくためには、これから先の人口減少も見据えて、小規模で新陳代謝が起きやすいこと、転用しやすい建物であることが必要だと思えます。大きくて、堅牢すぎる建物は、大きな範囲を均一化、固定化してしまうし、何十年も経って建物の耐用年数が来た時に、大きな範囲が一気に空き地になってしまう。それを私たちは今経験しています。大規模に開発するのではなく、小さなユニットで流動的な街にすることが、持続的に活性化していくまちづ

性」、地域の歴史、文化、風土等とも調和した、訪れる人々が愛着を感じられるような「地域性」などの機能を備えることが求められます。

これらの機能を、既成市街地における限りある土地の中で、適切に設定していく必要があります。

本計画では、湯本駅北側にある公共駐車場の移転や公共交通の乗り入れを中心とした交通広場の整備等により、「車から人中心への転換」や「公共交通の利便性・快適性の向上」、「車両の輻輳による危険な状況の解消」に取り組むこととしています。

また、駅前の歩行空間の確保については、事業規模や公共交通の運用など、様々な状況も踏まえつつ、駅改札から交流拠点エリアへの空間において、人を中心とした滞留機能や動線を確認することにより、街への期待感、開放感、さらには高揚感が得られるよう、具体的に検討を進めていくこととしております。

【全体計画】P10及び【多世代が集う交流拠点施設基本計画】P14のイメージ図について、駅改札の位置などを参考に記載します。

本計画では、駅前の交流拠点施設については、「外とのつながりを重視し、活動が見えるづくり」や「窓口サービス時間外でも、寂しくならない運用や機能の配置」などの施設づくりの考え方としています。

また、交流拠点施設の具体的な規模や構造、機能の配置などについては、今後、事業可能性調査や具体的な仕様等を検討することとなりますので、人々の活動と公共サービスの交差や堅牢な建物としない考え方などの御意見については、今後の参考とさせていただきます。

御意見のとおり、湯本駅周辺は温泉観光地としての側面と地域生活の場所としての二面性を有する特性があり、他の温泉地と差別化を図れるポイントであるとともに、湯本温泉の魅力のひとつになる可能性があると考え

くりのポイントだと思えます。また、複合化の罫も考えなければなりません。なんにでも使えるホールのようなものは、一見フレキシブルで今の時代に合っているように思うかもしれませんが、なんにでも使えるということは何にも使えないということと同義だと思えます。

特に、ホールや体育施設は中途半端なものを駅前で作るならば、プロのスポーツや興行にも使えるようなものを、どこに何を配置するのかをいわき市全体で考えて、体育施設は21世紀の森公園の周辺に集めるとか、ホールは別の場所に作るか、アリオスに集中させることも考えた方が良くと思います。

○観光目線か住民目線か

観光優先なのか住民優先なのかということが時々議論になります。私はそれは両立できていると思っています。住民が楽しめる街は観光客も楽しめる街だと思えます。

湯本温泉は駅から徒歩で行ける温泉地で、人々の生活の住宅も商店も融合しているところが他の温泉地と差別化をはかれる重要なポイントです。ほかの温泉地のように旅館や観光関係者しか暮らしていない町と違って、商店も飲食店も地元の人が利用するからこそ成り立っていて、味わいもあるし、活気もある。そのおかげで最近はお店が増えてきています。インバウンドにも観光しながら人々の日常生活が身近に感じられることは、珍しい体験になり得ます。

長年をかけて作られてきた個店の個性がこの街の個性を作っています。年月をかけて作られてきたものは、いくらお金を掛けても作り出せるものではありません。

それらの個店が営業を続けられないような開発はしない方がいい。湯本の街の個性をつぶさないでください。せっかくいろんな人がお店を始めています。もっともっとそういう人たちが増えるように、小さなお店が営業していきやすいまちづくりが必要です。

私たちはこれまで十分議論してきました。いろんな意見が出たと思えます。でも「みんな」の意見を取り入れすぎて、どこにでもあるような街になってしまわないように。これから先は、専門家やとんがった人の力を借りて、10年先のその先を見据えて最先端よりも新しいことを考えていかないと、生き残れない。これまでの既成概念で、あれはできないこれはできない、あれもほしいこれもほしいで、「みんな」の意見を取り入れた風の無難なものを作ってしまうと、出来上がったときにすでに古く、いわき市は世界から何十年も遅れてしまいます。やろうとおもえばなんだってできるはずです。これまでの古い常識にとらわれずに、最先端のその先のとんでもなくおもしろい駅前空間を作って、世界中から注目され視察に来るような街にしましょう！

ています。駅前には、長年商売を営まれている店舗等、地域商業の歴史があります。また、空き店舗などをリノベーションした魅力ある店舗が出店することにより、まちなかに新たな人の流れが生まれる動きもあります。

常磐地区の市街地再生に向けては、このような街の特徴や個性を活かす取り組みを進める必要があるものと認識しています。

また、地権者をはじめとした関係権利者の皆様とは、事業や再建に対し不安を感じる事が無いよう、引き続き、勉強会や個別面談を重ねていきます。

専門家の必要性については、駅前以外の取り組みも含め、地域の特性を踏まえて全体で一貫性のある考え方・デザインでまちを形づくる事が不可欠でありますので、各取り組みがいわき湯本温泉を温泉観光地としてブランド化していく視点・戦略をもって、まちとしての統一感や連続性、エリアの魅力が発信される仕組みづくりを検討していきます。御意見も踏まえ、【全体計画】に、今後の進め方を追加します。

<p>33</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・バスターミナルやタクシールは存置するのか。 ・関船弓道場の代替施設は設置するのか。 ・関船体育館で現在行われている大会などは全て総合体育館等で行ってもらうのか。 	<p>湯本駅前の交通広場については、交流拠点施設整備に伴い、一体的に改変する計画としており、現在の形のまま存置する計画ではありません。駅前周辺が人中心の居心地のよい空間とするため、公共交通をメインとした乗り入れとし、車両の輻輳を解消する考えの計画としており、今後、具体的な検討を進めていきます。</p> <p>市では、将来的な人口減少や少子高齢化などによる社会構造の変化や、今後さらに財政の制約が強まること、公共施設等の老朽化や大量更新時期の到来などによる維持管理・更新経費が増大することを踏まえ、「いわき市公共施設等総合管理計画」を改定し、公共施設等のあり方を抜本的に見直すこととしています。</p> <p>そのような中、全市的な体育機能のあり方・運用等の検討を進めていくこととしています。なお、本計画により、現在の関船弓道場や体育館等が、早急に休止・廃止となるものではありません。</p>
<p>34</p>	<p>本計画（素案）に携わっていらっしゃる市役所担当者様、大変ご苦労様です。</p> <p>6月29日に行われました「常磐地区再生整備基本計画（素案）」説明会、お疲れ様でした。参加させていただき、またその議事録、更に今回の計画（素案）を確認させていただきました。その中で気になったことがありましたので、書かせていただきました。</p> <p>1. 「現在、観光の方の多くは車で来られ、魅力を向上させ電車でも多く来ていただくということかと思いますが、その方たちが駅前にある支所に行くのでしょうか。支所を駅前につくる意味がよくわかりません。」（4人目の質疑者、議事録より）。素直な市民の意見のように思いました。質疑をした方と意見が同じでないと思いますが、駅の近くにある支所、遠くにある駐車場の配置を考えると支所機能を利用することに重荷を感じます。利用する市民にとっては大変不便に思われます。電車利用者を中心に考えているように思われます。</p> <p>2. 「公共施設の適正配置の名のもとに、誰も望まない、セメント倉庫のような体育館を建てるようなことはやめていただきたい。」（3人目の質疑者、議事録より）</p> <p>「これまでの古い公共施設の整理について、機能を駅前に持つてくることとしていますが、文化サークル活動などの公民館や市民会館の機能、そこに、関船体育館まで入れてしまうと機能が多すぎるかなと感じています。」（2人目の質疑者、議事録より）</p> <p>公共施設の中でスポーツ施設は駅周辺に設置すべきでないのかもしれませんが。多目的施設もどのような団体、種目が利用可能か不明です。支所と同様に駐車場が遠いのは不便です。</p>	<p>公共施設の集約については、一つの機能や偏った機能の施設または施設群が単独で立地していた場合、まちへの立ち寄りがうまれにくく、また、過度に車に頼ってしまうところがあるため、地域経済への波及や健康の増進、効率的なインフラの実現に向けては、コンパクトなまちづくりが重要と考えています。湯本駅前については、鉄道やバスなどの交通結節点であり、地域住民をはじめ観光客が利用する、まちの玄関口となっています。そのため、今後の急速な人口減少や超高齢社会の到来なども踏まえ、駅前を単なる通過場所ではなく、地域住民も含め、多くの立ち寄りや交流が生まれる場所とすることとし、公共機能と民間機能を備えた交流拠点を形成する計画としています。</p> <p>また、交流拠点施設に隣接する場所に駐車場を整備することで、駅や周辺商店街とのネットワークを構築し、居場所・目的地となる交流拠点施設や民間のライフ機能への立ち寄りや滞留を促す計画としています。なお、交流</p>

3. 「常磐地区には、21世紀の森公園があり、いわき全体のスポーツのメッカとなっているため、駅前に中途半端なものをつくるのではなく、体育機能は21世紀の森公園に集約することがよいと思います。」（2人目の質疑者、議事録より）

検討会で市役所担当者が回答した内容を述べていると思われますが、集約すべきは平上荒川のおわき運動公園との関係とされます。場所が近いこと、既存している運動施設が同じものが多いことです。そのことを思えば21世紀の森公園は、常磐地区というよりは、いわき市のスポーツ施設の象徴と考えるべきでしょう。常磐地区における専門性あるスポーツ施設は、なくなると考えるべきです。

4. 公的不動産活用事業

現在の関船弓道場、関船体育館、常磐公民館・図書館、常磐市民会館の跡地活用について、計画（素案）では、「地域住民の生活利便性や快適性の向上につながるよう、医療、福祉、商業などの日常サービスの立地を目指します。」と記載されており、不動産の売買により財政の補てんを考えていると思われます。

しかしながら、周囲の状況は、道路の幅が狭く、バスなどの大型車の交通は困難です。また、いわき市立の小学校、保育園があり、子供たちの行き来があります。そのことを考慮すると、特に商業地としては向いているのでしょうか。利点としては大きな敷地面積があり、広い駐車スペースが取れるのでしょうか。

5. 提案として

支所、公民館、図書館多目的施設は現在の関船体育館、常磐公民館・図書館がある敷地に設置した方が、市民の皆様は利用しやすいのではないのでしょうか。面積は現在の4分の1程度（建築については専門外です）にして、同じ建物（4～5階）でできないのでしょうか。

1) 利点

- (1) 高額と思われる駅周辺の土地買収費の削減
- (2) 建物と駐車場の設置距離が近くなり利用者は便利
- (3) 駐車場が広く取れる
- (4) 既存の市の土地を再利用（費用削減）
- (5) 支所以外は元々の位置なので市民には分かり易い
- (6) 市の施設が明確化
- (7) 建て替え年数の長期化が望める（駅周辺は時代に即したデザインへの短期改築が求められる）

2) 欠点

- (1) 支所の設置により交通量の増

拠点施設の敷地内にも駐車スペースを設置するなど、歩行が困難な方にも配慮する計画としています。

本計画に記載の交流拠点施設の「カルチャー＋アクティビティ」機能の多目的施設については、体育機能に特化しているものではなく、比較的な大規模な会議や講演会や演奏などの発表の場のほか、卓球やバドミントンなどの軽スポーツ等の活動や、他地区の多目的施設の状況なども踏まえ、規模感を検討しています。

なお、交流拠点施設のサービスのあり方や運用等については、今後、地域や関係団体等の方々と意見交換などを行いながら、具体的な仕様等を検討することとなります。

全市的なスポーツ機能の集約については、「いわき市公共施設等総合管理計画」に基づき、公共サービスあり方の検討なども踏まえながら、整理を進めていくこととしています。

公的不動産利活用事業は、現在の市民会館等の敷地において、公共施設再編後の公有地の利活用として、地域住民の生活利便性の向上につながる医療や福祉、商業等の日常サービス施設の立地誘導（民間開発）を図る計画としています。

その実現に向けては、事業可能性調査などを実施し、企業の立地の意向や、必要となる基盤整備などの課題などについて官民対話を行っていくこととなります。

現在の関船体育館等の敷地への共施設の集約・移転の御意見については、前記のコンパクトなまちづくりのとおりとなります。

本市の公共施設等については、将来的な人口減少や少子高齢化などによる社会構造の変化や、今後さらに財政の制約が強まること、公共施設等の老朽化や大量更新時

	<p>(2) 当初のコンセプト、商業施設との複合化が望めない</p> <p>(3) 周辺道路が狭い</p> <p>(4) 人の往来増のため市立の小学校、保育園があり、交通災害等のリスク</p> <p>(5) 不動産売買の利益がなくなる</p> <p>6. 要望</p> <p>今回の計画（素案）の文書に掲載されていませんでしたが、関船弓道場が廃止の計画があり、常磐体育協会所属の常磐弓道会（福島県弓道連盟常磐支部、いわき市体育協会いわき市弓道連盟所属）としては非常に困っています。常磐地区における高校部活、一般者の指導・育成、祭事・文化交流（長松神社祭、鈴木吉之丞講演会等）にも参加し、常磐地区の弓道発展に寄与してきました。今後もその活動を継続して行っていきたいと思っています。そのため以下のことを要望したいと思います。</p> <p>◎多目的施設を弓道活動で使用可能な形態へ設計されることを希望します。</p> <p>近年大きな弓道大会においては、アリーナ等で行われることが多く、室内で行射することも可能です。多目的施設での設置器具も製作されています。</p>	<p>期の到来などによる維持管理・更新経費が増大することを踏まえ、「いわき市公共施設等総合管理計画」を改定し、公共施設等のあり方を抜本的に見直すこととしています。</p> <p>そのような中、全市的な弓道場のあり方・運用等の検討を進めていくこととしております。なお、本計画により、現在の関船弓道場等が、早急に休止・廃止となるものではありません。</p> <p>多目的施設について、弓道活動で使用可能な形態とする御要望については、貴重な御意見として承ります。</p>
35	<p>常磐地区市街地再生整備において廃止として検討対象となっている関船弓道場について、常磐地区において継続して弓道ができる環境・機能の存続へのご理解をお願いしたく意見を提出いたします。</p> <p>武道は、近年全国的に日本古来のものとして若者にも興味を持たれ、人として自分を大きく成長させることが出来るスポーツとして広まっております。関船弓道場は、武道の精神を培う場、小学生から若年層、中高年齢層まで多様な人々が集い、交流、賑わいが生まれ、人・情報のたまり場としての役割をこれまで担ってまいりました。</p> <p>また、常磐地区は、温泉、フラ、歴史、自然という地域資源を持っています。いわき市都市計画マスタープランにおいても、「地域文化としての“温泉”と“フラ”の活用」、「地域資源の再編集とネットワークづくり」が基本方向と示され、その中には、映画の舞台となった湯長谷藩の歴史を広くPRすることも含まれています。湯長谷藩には、弓の名手である鈴木吉之丞藩士がおり、死後、長松院霊神として長松神社に祀られ地区民の信仰を集める神となっています。祭事も行われ、関船弓道場で修練を積んだ弓人が奉射祭での役割を担っておりました。都市計画マスタープランにもある地域の祭事・行事・伝統芸能の継承にも合致し、祭事等の地域文化継承にも関船弓道場は役割を果たしています。</p> <p>そのような中、関船弓道場が湯本駅における多世代が集う交流拠点の整備計画から外され、道場廃止の方向である旨の提示を受けました。私達は、武道を通しての人間形成や生涯学習の実践の場、歴史・地域祭事の継承の場として弓道ができる環境を常磐地区に残してほしいとの思いで、弓道ができる環境・機能の存続を希望いたします。</p>	<p>本市の公共施設等については、将来的な人口減少や少子高齢化などによる社会構造の変化や、今後さらに財政の制約が強まること、公共施設等の老朽化や大量更新時期の到来などによる維持管理・更新経費が増大することを踏まえ、「いわき市公共施設等総合管理計画」を改定し、公共施設等のあり方を抜本的に見直すこととしています。</p> <p>そのような中、全市的な弓道場のあり方・運用等の検討を進めていくこととしています。なお、本計画により、現在の関船弓道場や体育館等が、早急に休止・廃止となるものではありません。</p> <p>武道を通しての人間形成や生涯学習の実践の場、歴史・地域祭事の継承の場として弓道ができる環境を常磐地区に残してほしいとの御要望については、貴重な御意見として承ります。</p>

<p>36 まず、今般の常磐地区市街地再生整備基本計画の素案を策定されたことにつきまして、夢わくわくゆもと市民会議の時代より 20 年来停滞していた湯本駅前のまちづくりを加速させて頂いていますことに心から御礼申し上げますとともに、ここに至るまで心血を注いでくださっているご担当各位に敬意を表します。</p> <p>「常磐地区市街地再生整備基本計画」(素案)に対するパブリックコメントを提出いたします。</p> <p>・動機と手法の乖離</p> <p>内田市長さんの基本計画案の記者会見を拝見しましたが、冒頭の説明で温泉観光地としての街づくりということに触れておられて、現在の常磐地区の課題を的確に捉えられていたために非常に期待しました。しかしながら、基本計画案に目を移すと温泉観光地として「シンボル性」「温泉」と「フラ」などのキーワードが散見されるのみで、誰を対象にどの様なインパクトを与え、どの様に稼いでいくのかという部分について具体性を欠いており、どの様にして震災前の観光入込客を回復し、さらに高みを目指していくのかという根本的な議論は置き去りにされています。</p> <p>今回計画では PPP/PFI による事業の可能性を模索しているようですが、このようなターゲット設定が十分になされない状況で民間事業者の提案に委ねたところで、利益獲得を目的とする PPP/PFI 事業者と、常磐地区の観光事業者が考える観光のウリとの間にズレが生じることで、公民連携事業の効果が十分発揮されないだけでなく、まちとの対立や単なるコストセンターを生み出してしまいう危険性すらあります。</p> <p>事業スケジュールを優先するあまり、議論すべき部分が足りていない状況は是正する必要があると考えます。</p> <p>湯本駅前街区再編・駅前交通広場整備事業についての機能配置・動線計画のイメージ図を見ると、駅を降りて改札から一番近い一丁目一番地とも言える部分に稼ぎを産まない公共施設用地を計画し、既存の民間商業施設をライフとして駅前から遠い方に追いやっている状況は、まちづくりの方針としてはあり得ないものだと感じています。</p> <p>現状の計画内で公共施設内に、現状の湯本駅前の賃料同等で入居できる既存施設向け商業施設ゾーンの設置等を検討する考えはあるのでしょうか？</p> <p>どの様な方法で整備を進めるとしても、駅周辺の既存事業者の協力なしに実現しないのであれば、その心情に立って考えた場合には、まずは事業に協力を頂く既存店舗、既存権利者を優先するような配慮を欠いているのではないかと感じてしまいます。</p> <p>既成市街地での区画整理導入という事であれば尚のこと、誰のため、何のために今回の市街地再生を行っていくのかという動機を明確にして、丁寧に説明を重ねて周辺からの理解を得ていく必要があります。</p>	<p>本計画は、これまで、地区の現状や課題などを地域の方々と共有し、それらの課題を解消しながら、まちの魅力を高めていくために必要となる事業の大枠を整理し、9つの取り組みとして整理したものとします。</p> <p>しかし、御意見のとおり、いわき湯本温泉を温泉観光地としてブランド化していく視点・戦略をもって各取り組みが具体的に展開されなければならないと考えています。</p> <p><u>このため、専門家も交え、温泉観光地としての「まちのあり方・デザインの指針」となる戦略を策定し、この戦略に基づきながら各取り組みが展開される仕組みづくりを進めます。御意見も踏まえ、【全体計画】に、今後の進め方を追加します。</u></p> <p>公民連携事業の導入可能性調査を実施するにあたっては、御意見のとおり、常磐地区の観光事業者が考える観光のウリとの間にズレが生じないようにすることが重要と考え、地域の関わり方の調査を地域とともに進めているところです。</p> <p>基本計画に記載の「交流拠点施設整備検討区域」は、公共施設を配置する区域ではなく、温浴施設等の民間収益施設を含めた交流拠点施設の整備を検討する区域を示しており、「交流拠点施設は、隣接する民間ライフ機能との交流を創出する配置」との考え方を基本とする計画としています。なお、当該区域及びゾーニングは公有地及び民有地の土地の組み換えにより決定することとなるため、本計画に記載のとおり、権利者の方々等との協議状況により変更となるものです。</p> <p>交流拠点施設の民間収益施設の具体的な機能については、前記の地域の関わり方の調査の内容なども踏まえながら、今後、検討を進めていきます。</p> <p>地権者をはじめとした関係権利者の方々へは、地元の</p>
---	---

公共施設を集約・移転させることが目的で、そのために既存商店が移転を余儀なくされるといふ誤った認識を持たれないようにするためには、再度、何のために、誰のために、この事業を実施するのかという根幹の部分、市役所内部と地元住民、関係者との間で共有する事が肝要と思います。

既存の商店、地権者も安心して商売を存続できる環境を整えた上で、新たな市民と観光客の居場所づくりと身の丈に合った公共施設再編が実現されることを強く求めます。

今回事業の目標値を観光入込客 60 万人、湯本温泉街の満足度 50%、公共交通利用者数 4,000 人としていますが、常磐地区の市街地が再生されるのか、非常に疑問に思います。

観光入込客 60 万人を達成する内訳の核と言え部分ほどの様に達成していくのか、その結果として生まれる効果が本来の実となる部分のはずです。

特に、目標となる 60 万人という数値や温泉街の満足度 50%という数値は、結果として宿泊客増加に伴う新たな設備投資の発生や、周辺店舗の来客数増加による売り上げ増加、新規テナント入居希望者の増加などに繋がり、経済的メリットを産むことをより分かりやすく伝える必要があります。

また、いわき市においても、固定資産税収入の増加や市民税の増加、さらに入湯税の増加など、新しい投資を呼び込みエリアの価値が高まることかどの様な経済循環をもたらすか、官民が win-win の関係となるよう、キチンと数値目標化しておく必要があると感じます。

また、公共交通利用者数を数値目標化していますが、基本計画 3 ページに記載の道路・交通の部分には公共交通体系の課題が抽出されておらず、またこの部分に対してどの様な施策を講じて何をどの様にしていくかの具体的な記載がないことから、絵に描いた餅にもなっていないと感じます。

3つの大きな数値目標の一つとして取り扱うのであれば、丘陵地帯に開発された古い団地に囲まれた常磐地区内でどの様な公共交通体系を構築し、目標数値を達成するのか、具体的な施策を記載すべきです。

全国で唯一「湯本駅」と言い切れる湯本駅前は、いわき市における観光の核として大切にしなければならぬ空間であります。

本来であれば、いわき市の全市的な観光戦略の中で、教育旅行や研修旅行、スポーツツーリズムなど、いわき湯本温泉郷に対してどの様なターゲットを見据えた観光戦略を設定するかについて、旅館等の観光事業者との議論を重ね、その受け皿として湯本駅前交流拠点にどの様な機能をどの程度の規模で落とし込むかという方針を決定する必要があるはずで。

しかしながら、その議論がなされない状況のまま、とりあえず公共施設が老朽化したために集

まちづくり団体にも同席いただき、市街地再生に向けた取り組みの必要性や内容、事業制度の概要などについて説明し、湯本駅前の街区再編への御理解と御協力をお願いしているところです。

権利者の方々が事業や再建に対し不安を感じる事が無いよう、引き続き、勉強会や個別面談を重ねていきます。

「観光入込客 60 万人を達成する内訳の核と言え部分ほどの様に達成していくのか」については、前記のとおり、いわき湯本温泉を温泉観光地としてブランド化していく視点・戦略のあり方について、今後、検討を進めていきます。

本計画では、観光客の来訪機会や、学生や高齢者等の外出機会を増やす取り組みとの関連性を考慮し、「鉄道利用者数の増加」を目標に掲げています。

なお、常磐地区における市街地再生を実現するには、安全で利便性の高い公共交通の確保が重要であると認識しており、本計画では、「車から人中心への転換」や「公共交通の利便性・快適性の向上」、「車両の輻輳による危険な状況の解消」に取り組むこととしています。

本年 8 月に第二次いわき都市圏都市交通マスタープランを策定し、実行計画となる都市・地域総合交通戦略及び地域公共交通計画の検討を進めているところであり、多様な交通手段の導入など、楽しいお出かけが実現できる取り組みについて、検討を進めたいと考えています。御意見を踏まえ、【全体計画】P10 の「湯本駅前街区再編・駅前広場整備事業」の文章、「整備コンセプト(案)」及び【多世代が集う交流拠点施設基本計画】P11 の「駅前交通広場の施設づくりの考え方」について修正します。

交流拠点施設の公共機能については、「人と情報のたまり場」を基本コンセプトに、民間収益施設も含め公共施設

約しますという進め方は受け入れがたいものがあります。
古くなったから何でもかんでも集めて床面積を減らして合理化すれば良いという考え方ではなく、温泉観光地の核として必要な機能を熟慮した上で、身の丈に合ったものを整備していくと言った方針へと今から変更するべきであると考えます。

観光戦略の議論が進んでいない状況は、方針5「歩きたくなる沿道景観・道路空間の整備」などについても影響を及ぼし、吹谷地区の旅館周辺の狭隘道路などがある状況で、何故この通り(市道三函吹谷線)に観光客を歩かせる仕組みが必要なのか、どの様なターゲットの観光客に対して、どの様な湯本らしい時間・空間を提供する事に繋がるのかなど、動機や対象、期待される効果が非常に曖昧だと感じます。

計画スケジュールでは、比較的早い段階で社会実験等を計画しているように見えますが、動機が曖昧な状況のまま、現状周辺住民からの意見吸い上げや、意見を交わすことなく基本計画が策定されている状況であり、電柱地中化や一方通行化、道路を高機能化するなどの手法が述べられていることに大きな違和感を持ちます。

観光戦略の議論を十分に煮詰めた上で、周辺住民の意見に耳を傾けて頂きたいと感じます。

・触れられていない温泉の利活用問題

湯本財産区が管路の老朽化から温泉配湯事業を維持できなくなったことで、いわき市に事業を移管したことがここ数年の議会でも議論されているとお聞きしています。

これまで温泉の利用促進に向けた営業活動をしてこなかったことや、財産区という特殊な団体が行う事業故に、将来的予測に怠慢があったものと感じています。

赤字の温泉配当事業は、温泉の利用者増加による収益確保が最重要課題であることから、問題先送りすることは得策と思えません。

特に、温泉という地域固有の宝をどの様に利活用するのかという事については、観光客を呼び込んで外貨を稼ぐための利活用策という側面と、介護予防、地域包括ケアへの取り込みなど市民の健康と福祉向上により義務的経費を縮減していくという側面の両面で議論を深めていく必要があります。

今回の計画エリア内に2つの公衆浴場と多くの温泉旅館を抱えているにもかかわらず、温泉の利活用という課題を抽出しておらず、具体的な施策の記載も見当たらない状況です。この温泉の利活用については、入湯税という貴重な財源を産む試金石でもあることから、議論を加速するべきであると考えます。

・優先順位を誤った街区設定

街区の設定について、駅に近い部分を公共施設用地とロータリーとして設定している様子は、

が担う機能の利用イメージなどについても、地域の方々と意見交換を行い、検討してきたものです。

交流拠点施設の具体的な規模や構造、機能の配置などについては、基本計画において決定するものではなく、今後、事業可能性調査や具体的な仕様等の検討を進めることとなります。

基本方針5「歩きたくなる沿道景観・道路空間の整備」については、温泉街における回遊性の向上などの課題に対する取り組みとして、新たな駅前の交流拠点及び温泉街の滞留拠点の形成や、さはこの湯やつるのあし湯広場、既存旅館の立地状況を踏まえ、温泉街を演出する骨格軸などについて、地域の関係団体等の方々と意見交換を重ね検討してきたものです。

観光戦略については、前記のとおり、いわき湯本温泉を温泉観光地としてブランド化していく視点・戦略をもって各取り組みが具体的に展開されなければならないと考えておりますので、まちとしての統一感や連続性、エリアの魅力が発信される仕組みづくりを検討していきます。

なお、今後、具体的に取り組みを展開するうえでは、本計画のロードマップに示すとおり、地域の皆様と対話を行いながら進めることとしています。

また、交通規制や舗装の高質化、無電柱化については、一つの案として記載していますので、御意見を踏まえ、表現について修正します。

本市の公衆浴場や温泉給湯事業のあり方については、現在、調査・検討を進めているところです。

本計画では、湯本駅前の交流拠点施設や滞留拠点施設をはじめ、地域資源である温泉を活用することとしています。温泉の特質や効果などを認識し、各取り組みをすすめていくことが重要であると考えています。

駅前街区の設定、官民境界の御意見については、駅前街

駅前想定エリアからまず公共用地、交通事業者の必要な土地を確保し、余った部分を既存店の民間事業者に割り当てるといった印象を持ってしまいます。

これは「駅前の一等地」と呼ばれる部分が17:00過ぎに電気が消えてしまうエリアとなってしまう、稼げるエリアづくりといった観点や、温泉観光地の賑わいづくりに全く寄与しないものとなってしまうことを懸念しています。

商業が成り立つような街区設定とならなければ、周辺商業も成長しませんし、既存の権利者たちも納得できないものとなり、結果的に当初の動機、目的が達成できない計画が延々と進んでいく事になってしまいます。

今後、この街区設定については民間事業者による提案を受けてという事になると思われませんが、担当部局の言いなりとなる全国区の建設コンサルタント会社が、地元商店に対し熱意をもって意見を吸い上げ、理想とする街区を提案するとは到底考えられません。

今後の計画の進捗にあたっては、十分留意されて頂きたいと思います。

- ・官民境界が際立つ街区割り

道路と広場、公共施設、民間施設がハッキリと分断された面白みのない空間を想像してしまう、全国各地どこにでもあるまちづくり計画と感じました。

この部分については、今後のランドスケープデザイン等で如何様にも改善できるものと思いますが、区画整理としての街区設計を行う事業者が決定されることとなり、そのセンスが非常に試されることとなります。

公共施設と民間商業施設をどの様に溶け込ませて、一体的な整備を行っていくかという議論を加速させる必要があります。

- ・ライフという名の空白

民間施設のライフの内容については内訳の無い空白地帯となっており、どの様な商業を成立させることが今後の地域経済にとって最も課題解決に寄与するのかというビジョンがありません。

このことが、今後提案を募集する民間事業者に丸投げという印象を持ってしまいます。

この部分を早急に検討し打ち出していく必要があります。

今後劇的な人口減少を迎える中であって、温泉観光地として域外からの経済を呼び込むことが必須である以上、今回の計画に求められる商業機能は、いつ何時撤退するか分からない都会のどのまちにもあるようなファストフード店や大手ドラッグストアなどのナショナルチェーン店ではなく、ここにしかない魅力をもった店舗であり地域に正しい経済循環をもたらす地元事業者を最優先に考えることが肝要であると考えます。

特に、大手ナショナルチェーンを求める声は地元住民にも多く聞こえることと思いますが、地域に落ちるお金を域外に流出させ、地域の商業を衰退させることから、地元資本の事業者を優先

区再編の範囲や道路の配置等は、交流拠点への導入機能、公有地や低未利用地等の土地利用、権利の状況、さらには事業費、工事期間等を総合的に勘案し検討しているものです。前記のとおり、当該区域及びゾーニングは公有地及び民地の土地の組み換えにより決定することとなるため、本計画に記載のとおり、権利者の方々等との協議状況により変更となるものです。

交流拠点施設への民間機能(ライフ)の御意見については、募集する民間事業者に丸投げするのではなく、まずは実現可能性の調査を実施し官民対話を進めることとなります。また、前記のとおり、公民連携事業の導入可能性調査を実施するにあたって、地域の関わり方の調査を地域とともに進めているところです。

また、御意見いただいた、地域住民にとっての「食」については、これまでの意見交換でも多くの意見をいただいております。実現すべき重要な機能と認識しており、本計画では、「日常生活に必要な生鮮食品等を取り扱う地場産品直売所の配置」を施設づくりの考え方に記載しています。

駅前街区再編の範囲や道路の配置等については、交流拠点への導入機能、公有地や低未利用地等の土地利用、権利の状況、さらには事業費、工事期間等を総合的に勘案し検討しているものです。

駅前の空間は、スムーズな移動や乗換えを実現する交通結節機能としての「利便性」や、魅力ある景観など充実した都市環境が有する「快適性」、歩車分離やバリアフリー、災害時の一次避難スペースの確保などによる「安全性」、地域の歴史、文化、風土等とも調和した、訪れる人々が愛着を感じられるような「地域性」などの機能を備えることが求められます。

これらの機能を、既成市街地における限りある土地の中で、適切に設定していく必要があります。

本計画では、湯本駅北側にある公共駐車場の移転や公

する仕組みを求めます。

先日の市民説明会の際に、参加者から意見がありましたが、地域内に買い物困窮者が急速に増加している状況から、地域住民にとっての食を満たす機能を多く導入していく必要があります。

特に、地場産の新鮮な食材を手にすることが出来ることは、地域の農業振興の観点からも有効であり、先のライフの内訳の一つとして大切にしたい指標となっています。

この部分を、キッチンと課題として抽出し、解決すべき施策の一つとして認識して頂きたいと思えます。

・交通広場整備について

本計画内の街区設定でも、湯本駅の改札を下りて最初に目に入るのはタクシープールとバスレーンとなっており、居場所でもまち庭でもない、利用者の数に見合わない過大なロータリーです。

姫路市や福山市などのように人間中心の街として、駅を降りて直ぐの場所に広場を整備し賑わいを再生させようとしている事例に学び、何のために何を作るかをもう一度ご再考ください。

特に地域住民の足となる公共交通については、今後人口が減少していくことを想定した場合に、小型バスや乗合タクシーなど、よりコンパクトな車両を利用して、狭隘な住宅街、住宅団地から市街地に高齢者を運ぶことを優先とした公共交通が求められることとなっていくと確信しています。

交通結節点であるという名の下に、既存の車両、既存の交通体系を前提としたもので土地利用を低くし、稼がない空間を増やしています。

バス事業者が現在使用している非常に古い大型バスを前提とせずに、よりコンパクトな車両導入を前提とした土地利用計画に縮小すべきと考えます。

タクシーの駐車スペースが多すぎます。

既にスマートフォンによるタクシー手配などが容易となっている状態であれば、数台のタクシー乗り場を整備するだけで事足りるようになってきます。

タクシーは実車状態となって初めて稼ぎを産むこととなることから、駅前という価値の高いエリアにタクシー待機所（無料駐車場）を過大に整備することは生産性の低い土地となりナンセンスであると考えます。

現状の湯本駅前のタクシー駐車場では、運転手同士が語らいをする広場となっており、公共空間であるにも拘らず灰皿の無い場所で喫煙する姿が見えるなど、観光地の雰囲気を著しく低下させていると感じていることから、この面積と位置については再考頂きたいと思えます。

公共交通の乗り入れを中心とした交通広場の整備等により、「車から人中心への転換」や「公共交通の利便性・快適性の向上」、「車両の輻輳による危険な状況の解消」に取り組むこととしています。

また、駅前の歩行空間の確保については、事業規模や公共交通の運用など、様々な状況も踏まえつつ、駅改札から交流拠点エリアへの空間において、人を中心とした滞留機能や動線を確認することにより、街への期待感、開放感、さらには高揚感が得られるよう、具体的に検討を進めていくこととしています。

【全体計画】P10 及び【多世代が集う交流拠点施設基本計画】P14 のイメージ図について、駅改札の位置などを参考に記載します。

駅東側の利活用については、これまでの地域の方々の意見交換においても「スーパーの閉店により、生活環境が変わってしまった」などの意見をいただいております。前記のとおり、多様な交通手段の導入など、楽しいお出かけが実現できる取り組みについて、検討を進めていきたいと考えています。

駅前の交流拠点施設については、洪水浸水想定を考慮し、地域住民や帰宅困難者等の避難場所として提供する計画としています。（避難所となるものではありません）。

東西の歩行者動線をより安全で快適な環境とする必要性については、災害時だけでなく通常時も多くの方々が利用しているものでありますので、関係機関とも情報共有を図ります。

交流拠点施設の駐車スペースへの車の動線と「まち庭」の人の動線との留意点については、御意見も踏まえ、今後具体的な整備について検討を進めていきます。

送迎スペースの御意見については、駅前周辺が人中心

・ 駅東側の利活用について

今回の市街地再生整備については、湯本駅前を中心とした大字湯本町を中心に計画されていますが、湯本駅西側の整備にのみ注力しており、同じ湯本町でも旧 6 号国道より東側に住む地域住民に対しては何ら変化をもたらさない状況にあります。

先の住民説明会の際にも浅貝地区住民の方から、買い物困窮者の意見が出されていたことから、浅貝地区をはじめとする駅東側の住民の方の生活環境にも配慮しなければなりません。

JR 常磐線、湯本川、旧 6 号国道という重要なインフラで分断されてしまっている東側住民の方々が、快適かつ安全に市街地での生活を享受できるような整備を求めます。

駅前周辺の洪水ハザードマップ等を見ると、災害級の洪水が発災した場合には、湯本川沿線は浸水する可能性を持っています。

また、駅東側にも土砂災害警戒区域等が存在していることから、高齢者等避難情報が発令された場合など、安全な避難路を確保しなければなりません。

今回の公共施設再編により、避難所機能を併せ持つ交流拠点計画しているのであれば、東西の歩行者動線をより安全で快適な環境とすることは、防災・減災の観点からも有効であることから計画への追加を強く求めます。

今回の基本計画では、公共交通機関の発着や朝夕の出迎えの停車ニーズの殆どの部分を西側の交通広場で受け止めようとしていることが、広大な駅前交通広場を産んでいると考えます。

交通広場に必要面積・機能の一部を駅東側に設定し、駅前を人間中心の広場づくりや、商業を成り立たせ稼ぐまちを作っていくための土地に充てることに繋がり、同時に駅東側の住民の生活利便性と安全性を高めることとなることから計画の変更を強く求めます。

・ 駐車場・送迎スペースの適正配置

今回の基本計画では、交流拠点の駐車スペースについては県道常磐勿来線を挟んだ西側に高層の駐車場が整備されるほか、やさしいまちづくり条例で求められる駐車場、支所等の利用者向けの駐車場を整備する予定と聞き及んでいます。

その駐車場への車の動線と「まち庭」の人の動線については極力交錯しないよう、最大限の配慮を行ったランドスケープデザインをお願いします。

現在の湯本駅前広場と市営湯本駅前広場駐車場は、通勤・通学する家族を迎えに来る車両が非常に多く、雨の日の夕方などは駅前広場じゅうに停車する車両で溢れ、危険な状況にもなっています。こうした送り迎えの車両のためのスペースを新たな交通広場内だけで吸収しようとした場合、どんどんと稼ぐ空間が減少していくことになってしまいます。

の居心地のよい空間とするため、公共交通をメインとした乗り入れとし、車両の輻輳を解消する考えの計画としており、今後、具体的な検討を進めていきます。

また、安全性や快適性を考慮した動線づくりに関する御意見も踏まえ、今後具体的な整備について検討を進めていきます。

駅前の交流拠点施設への公共機能については、御意見のように、常磐支所・公民館・市民会館・関船体育館を全て集約するものではなく、新しい機能・規模で再編する計画としています。

また、本計画では、その規模感なども踏まえながら、周辺環境や景観に溶け込むよう、低層建築を基本として検討することとしています。

また、本計画に記載の交流拠点施設の「カルチャー＋アクティビティ」機能の多目的施設については、体育機能に特化しているものではなく、比較的大規模な会議や講演会や演奏などの発表の場のほか、卓球やバドミントンなどの軽スポーツ等の活動の利用を想定し、土足での利用など利便性を高めるフロア運用の検討も位置付けています。

また、本計画に記載の交流拠点施設の「info ライブラリ」機能については、「カフェ等の民間収益施設と一体的な構成による、気軽に立ち寄れる居心地のよい空間の創出」「温泉やフラ、炭鉱など湯本らしさを発信するスペース」など、開放的な空間づくりを位置付けています。

なお、交流拠点施設のサービスのあり方や運用等については、今後も引き続き地域や関係団体等の方々と意見交換などを行いながら、具体的な仕様等を検討することとしています。

「学校施設の地域開放」については、将来的な公共サービスのあり方を検討するうえでの参考として、関係機関と情報共有を図ります。

こうした送り迎えの車両用に準備する送迎スペースについては、駅から離れた位置であっても、荷物を持った状態でも安全かつ雨に濡れずに移動が可能な動線を計画することで、移設可能であると考えます。

また、各旅館の送迎やスパリゾートハワイアンズの送迎なども、駅改札の正面に整備されることで、新しいまちと関わることなく直接改札へ入っていくことになり、外来者がいわきの魅力に出会う機会を損失しています。

こうした観光客向け送迎スペースについても、駅から離れた位置であっても、荷物を持った状態でも安全かつ雨に濡れずに移動が可能な動線を計画することで、移設可能であると考えられ、さらには地域との交流や消費行動に繋がることは、非常に大きなメリットを産むことになることから強く要望します。

今回の基本計画では、交流拠点の駐車スペースの大部分については県道常磐勿来線を挟んだ西側に高層の駐車場を賄うこととなります。

交流拠点から駐車場までの動線については、特に図書館や公民館の整備を行い、子どもの遊び場なども今後検討されることとなってくると思われるために、子ども、妊産婦、高齢者の利用を前提としたもので考えるべきであり、県道を安全に横断する必要があることから、小規模なペDESTリアンデッキ等の整備を要望します。

・公共施設の再編について

公共施設の再編について、決して広くない当該エリア内に、常磐支所・公民館・市民会館・関船体育館を全て集約するという事について納得しておりません。

まず、温泉観光地の玄関口に対して、これらの公共施設を全て集約するために、地域に似つかわしくない高層化・巨大化する公共施設を建設することは、温泉観光地の風情を再生させるどころか完全に破壊してしまうことに繋がり、到底受け入れられません。

特に公共施設については、一度整備してしまうと半世紀はその失敗のツケを払い続けることとなってしまいます。

また、上記のような稼ぐことを前提としていない施設を整備することは、イニシャルコストだけでなく、ランニングコストまで増加させるだけで、結果的に使い勝手の悪い施設が整備されることは、あってはならないことだと危惧しています。強く改善を求めます。

体育館と市民会館という性格の異なる施設を多目的という名の下で統合することに強い違和感を感じます。

文化団体が利用する際に床の養生シートを敷かなければならないなど、使い勝手を著しく低下

全市的なスポーツ機能の集約については、「いわき市公共施設等総合管理計画」に基づき、公共サービスのあり方の検討なども踏まえながら、整理を進めていくこととしております。

「いわきっずもりもり」は屋内遊び場として、石炭・化石館ほるの堅坑櫓の安全性の確保ができた時点で再び稼働していきたいと考えています。

駅前への機能移転につきましては、今後の本施設の在り方を含め検討する必要があり、貴重な御意見として承ります。

専門家の必要性については、前記のとおり、いわき湯本温泉を温泉観光地としてブランド化していく視点・戦略をもって各取り組みが具体的に展開されなければならないと考えていますので、各取り組みがいわき湯本温泉を温泉観光地としてブランド化していく視点・戦略をもって、まちとしての統一感や連続性、エリアの魅力が発信される仕組みづくりを検討していきます。

させるか、または体育施設から文化施設へと模様替えするために必要な機器類に多額の整備費用を費やすことを望みません。

そのメンテナンス費用を含めて、税金で賄われることや利用料金が高額となっていくことを将来世代に負担させることは到底納得が出来ません。

関船体育館については湯本駅前から数キロ離れた場所に 21 世紀の森公園があり、他の体育施設とあわせて運用される方が遥かに市民満足度の向上となります。

中途半端な規模の体育施設を整備するのではなく、国外や県外からも合宿等で訪れるスポーツチームを招き入れることの出来る本格的なスペックを持つ体育施設をしっかりと整備していくために、市内各地における体育施設のあるべき姿をしっかりと議論していく必要があります。

市民のサークル活動等によるスポーツ活動を支えるのに期待される学校体育施設については、平成 31 年改定スポーツ庁による「スポーツ施設のストック適正化ガイドライン」にて「学校体育施設を社会体育施設として管理を外部化し、授業や部活動の利用を優先したうえで、一般利用に開放する等、学校開放を最大限活用する。」と書かれており、また、令和 2 年 3 月にスポーツ庁により策定された「学校体育施設の有効活用に関する手引き」には、「スポーツ基本法において『学校設置者は、学校の教育に支障のない限り、当該学校のスポーツ施設を一般のスポーツのための利用に供するよう努めなければならない』旨が規定されていること等を踏まえ、9 割以上の地方公共団体において学校体育施設開放事業が行われてきているが、スポーツ実施率の飛躍的な向上を図るため、今後は、地域住民の最も身近なスポーツの場として一層気軽に利用できるようにしていくことが求められる。」と書かれています。

いわき市において学校体育施設をどの様に利活用するかについて議論が尽くされているとは言い難い状況にあると考えています。

このように、体育施設に対するニーズや、その受け皿についてのビジョンが明確に市民に伝達されていない状況下で、中途半端な体育施設を整備するということについては、さらに議論を加速させるべきと考えます。

閑静な住宅街に隣接した静かな場所にある常磐図書館が、地域で一番騒々しい湯本駅前に移転することになります。

しかし、いわき市内の図書館についてはどこも「静かにしなければならない場所」として利用されていることから、本来一番本を読んで欲しい世代である幼児から小学生などの児童の使用に適さない運営をされています。

ここ数年 library of year を受賞している図書館の中には、子どもたちが気兼ねなく本と親しむ環境を優先させ、静かな環境で読書や調べもの、勉強をおこなう人たちに防音室を利用しても

らうなどの、これまでの図書館というものに対する発想を逆転させるものが多く含まれていることから、単なる貸本屋としての図書館を整備するのではなく、地域のニーズを満たす施設づくりを進めて頂きたい。

また、図書館という公共施設については、本を借りて返しに来るといった反復する集客を呼び込むコンテンツと言えます。

今回の湯本駅前交流拠点における図書館が、市民や観光客の居場所としての機能としっかりと果たすことができ、飲み物を飲みながら、足湯に入りながらというような、他のコンテンツと複合化できるような図書館を望みます。

今回の交流拠点の整備に関して、市内の観光情報の提供拠点という意味合いの機能が求められます。

現在の常磐図書館では、地域文化等の書籍は重点的に展示されていたりしますが、市内観光の情報提供と言った意味合いでは、まったく足りない印象を持っています。

温泉観光地の核となる交流拠点施設に入居する図書館については、市内観光に関する書籍・情報を十分に備え、観光客に対して情報提供していく必要があります。

今回の基本計画の中で検討されている公共施設再編については、常磐支所、市民会館、公民館、関船体育館、みゆきの湯が中心となっていると思われるが、現在地震の影響で休館している石炭化石館のウッドピアに入居している子どもの室内遊び場「いわきっずもりもり」についても、今後の稼働については未だ結論が出ていない状況と聞き及んでおります。

今回の常磐支所移転集約に合わせて、社会福祉協議会の移転も検討されるようであれば尚のことと考えます。いわきっずもりもりは、今では子育てに悩む父母にとって心の支えとなっており、さらに図書館や公民館との連携しやすい性格の施設であり、さらには稼働率・満足度の高い集客装置となり得ることから、是非とも駅前への機能移設をご検討下さい。

・専門的知識をもつプロフェッショナルの登用について

今回の計画については、地位住民の生活の場であり、市内観光の核となる場であり、公共施設、民間施設を融合させるだけでなく、新たな視点でイノベーションやシナジー効果の獲得、地域経済への好循環など、多岐にわたる課題を同時に解決する非常に専門的知識を要するものです。

今まさに、街区再編の設計やPPP/PFI 事業可能性調査などを精力的に進めている状況にありますが、全国各地の温泉観光地との差別化する視点や、統一されたデザインや稼働意識の欠落、担当部局による縦割りの弊害などを生じさせることが懸念されることから、まちのデザイン性を高め、ブレないまちづくりを官民一体となって進めて行くことを目的に専門家集団をトータルコーディネーター役として登用することを希望します。

37	<p>関船弓道場につきまして、計画素案にも全く記載がなく、すでに決まったことなのかなととても残念に思いました。</p> <p>今年度より小学5年生の子どもが弓道場に通い始め、毎週末一生懸命練習しています。</p> <p>関船弓道場は、湯本高校や、福島高専の学生さんも利用しています。</p> <p>来月8月には、京都アニメーションによる高校弓道部のアニメ「ツルネ」も公開されます。どうか、常磐地区に残して下さいますようお願い致します。</p>	<p>本市の公共施設等については、将来的な人口減少や少子高齢化などによる社会構造の変化や、今後さらに財政の制約が強まること、公共施設等の老朽化や大量更新時期の到来などによる維持管理・更新経費が増大することを踏まえ、「いわき市公共施設等総合管理計画」を改定し、公共施設等のあり方を抜本的に見直すこととしています。</p> <p>そのような中、全市的な弓道場のあり方・運用等の検討を進めていくこととしています。なお、本計画により、現在の関船弓道場等が、早急に休止・廃止となるものではありません。</p> <p>常磐地区に弓道場を残してほしいとの御要望については、貴重な御意見として承ります。</p>
38	<p>湯本駅前再開発は100年に一度の絶好の機会と捉え、日本一の観光地を目指す。</p> <p>年間60万人を目標としているがオープン当時はお祭り相場では達成できるかもしれないが、この数字を継続して達成できるかが大事であり、その条件を満たせるまちづくりが大事とおもう。</p> <p>観光客や地元住民が回遊させるように観光施設や温浴施設を散りばめ、旅館の夕食までの時間を歩いて楽しく時間を潰せる仕組みをつくる。</p>	<p>市街地再生の実現に向けては、単に、基本計画に記載の各取り組みを実施するのではなく、地域と行政、企業など、様々な主体の動きが連動していかなければならないものと考えています。</p> <p>まちなかの回遊性を高めていくためには、御意見のとおり、観光客や地域住民が歩いて楽しめるよう、魅力ある個店や場所などを創出し、立ち寄りの機会を増加していくことが重要です。</p> <p>そのためには、<u>全体で一貫性のある考え方・デザインでまちを形づくる</u>ことが不可欠でありますので、<u>各取り組みがいわき湯本温泉を温泉観光地としてブランド化していく視点・戦略をもって、まちとしての統一感や連続性、エリアの魅力が発信される仕組みづくりを検討していきます。</u></p> <p><u>また、各取り組みを継続的に進めていくためには、地域自らがまちを運営し改善していく体制の構築・強化も必要と考えられますので、地域の関係団体等とも共有を図りながら検討を進めていきます。</u></p> <p><u>御意見も踏まえ、【全体計画】に、今後の進め方について追加</u>します。</p>
39	<p>ここまでの素案を作成していただき、市長をはじめ職員の皆様、関係各位のご尽力に感謝申し</p>	<p>本計画の策定に向けては、地域関係団体及び県市関係</p>

<p>上げます。</p> <p>素案を拝読し、常磐湯本町に住む一市民として計画案が実現し、湯本のまちが魅力溢れる街になり、湯本の人口増と観光客の増加につながることを期待しています。</p> <p>①素案を一読したところ、計画が実行されるに当たり、湯本町町民とまちづくり団体、商店街や温泉旅館の意見が反映されるのか心配です。</p> <p>想像ですが、首都圏の大手ディベロッパーや大手建設会社が考えた駅前開発になり、ものだけ造っていなくなってしまう、残された街は地元の人が誰も喜ばないものになるのではないかと危惧しています。</p> <p>湯本町のことを考えているのは私たち湯本の住民であり、住民を代表する議員さんやまちづくり団体、商工会やその他の地元に関わる方だと思います。</p> <p>湯本町の発展について考えている人たちが理想とする建物であったり、景観にさせていただくよう計画を進めていただきたいと思います。まちの人々の意見が反映されるようお願いいたします。</p> <p>②学生が勉強できる自習室をどこかに設けていただきたくお願いいたします。</p> <p>塾に通わない中学生や高校生が、自宅と学校以外で勉強する場所が湯本にはありません。いわき駅まで行って図書館の自習室やアリオスに行きます。</p> <p>湯本駅周辺に自習室があれば、地元の中学生や平、勿来方面の学校に通う生徒や湯本高校の生徒が学校帰りに寄ることができて駅前に人がとどまることとなります。</p> <p>ご検討をお願いいたします。</p>	<p>部署で構成する「常磐地区まちづくり検討会」や「ワーキンググループ」などにおいて、多くの意見交換を重ねてきました。また、今後、各取り組みを推進するうえでも、地域の皆様と対話しながら進める考えでいます。</p> <p>学習スペースの必要性に関する御意見については、これまでの地域との検討の中でも、駅前に必要な機能として挙げられてきたことから、本計画では、駅前の交流拠点施設の「カルチャー＋アクティビティ」機能において、「小中高生や社会人など個人利用のスペースとしての利用の検討」を施設づくりの考え方として記載しています。</p>
<p>40 素案を見てまず持った感想が、大きいことをやる前に、目の前の小さいことを改善すべきではないのかということでした。いわき市の再開発事業についてはいつも、木を見て森を見ずの逆のような、木に虫が付いているのに無視して森を作り、最終的に全部枯れているというような印象を受けてしまいます。</p> <p>湯本にそうなってほしくないという思いから、4点、素人ながらコメントさせていただきます。</p> <p>①新しい拠点を作る必要はあるか？</p> <p>私の周りでは「今、湯本が面白いらしい」という声が、割と聞こえています。</p> <p>「湯本に面白い場所ができてから行ってみたい」「ついでに温泉に入りたい」</p> <p>しかし同時に聞こえてくるのが「湯本は道がわかりづらい」「駐車場がない」「だから行くのはハードル高い」という声です。</p> <p>私は湯本に居を構えて3年ほどになりますが、上記のような理由から、湯本に興味がある友人ですらなかなか遊びに来てくれず、毎度私が湯本から出ていくことになっています。湯本に来てくれようとする人を迎え入れる器がない、というのが湯本の現状ではないかと考えます。新しい拠点よりもまず、今ある需要を満たすように整備を行うことが先決ではないでしょうか。</p> <p>その点で、駅前の駐車場構想はありがたいと思います。個人的には温泉エリアにも公共もしく</p>	<p>湯本駅前については、鉄道やバスなどの交通結節点であり、地域住民をはじめ観光客が利用する、まちの玄関口となっています。そのため、今後の急速な人口減少なども踏まえ、駅前を単なる通過場所ではなく、地域住民も含め、多くの立ち寄りや交流が生まれる場所とすることとし、公共機能と民間機能を備えた交流拠点を形成する計画としています。</p> <p>また、温泉街の滞留拠点については、地域最大の資源である温泉や温泉神社に隣接する特性を活かしながら、「いわき湯本温泉のシンボル」を形成し、ひとの流れや賑わいや、活力を生み出す計画としています。</p> <p>温泉街の回遊性を高める機能の1つとして、駐車需要への対応の視点は重要であることから、御意見も踏まえ、今後具体的な検討を進めていきます。</p>

は時間貸しの駐車場があれば、と思っています。個人的な意見をもっと言えば、さはこの湯の駐車場もどうかかならないものか、と思っています。

②誰を集めたいのか？

素案からは、多世代が集う、賑わいのある、歩きたくなる街にしたい、という思いが感じられます。ただ、その「集う人」の対象がなんとなく漠然としていて、外からいっばい人が来たら嬉しいネ、というような浮ついた印象を受けました。いわき市民も、もちろんその「集う人」の対象になっていますよね？①で述べたように、いわきの他地域の方々の潜在的な需要はあると思います。いわき湯本は箱根湯本にはなれませんが、いわき湯本ならではの面白さは十分あると思います。私はそれを、まずはいわきの他地域の方々に知ってもらいたいと思っています。外ばかり意識するとろくなことがないように思います。いわき駅前前の再開発のようにはなってほしくないという思いです（すみません）。

③三函エリアの交通規制について

歩行空間を広くとる取り組みについては、非常に危惧しております。私には2歳の子供がおります。三函エリアは散歩コースなのですが交通規制を予定されている道路は交通量が多いため、裏通りを散歩するようにしています。裏通りは交通量が極端に少なく、見通しも良く、のどかです。言うことを聞かず、親の制止を振り切る子供を散歩させるには最適の散歩コースです。

これが、予定されている交通規制を行うことで

- ・さはこの湯の通りも、裏通りも、同じような交通量になる
- ・飛ばす車が増える（現在の狭い道路でもかなりのスピードで飛ばす車がいる状態なので、走りやすくなれば尚のことかと思えます）

となり、いくら歩行空間が広くとも穏やかに散歩することは難しくなってしまうと考えています。近所で散歩ができないとなれば、車に乗って湯本から出て、他地域の安全な場所まで行くしかありません。

常磐地区は、保健福祉課の方々がとても親切で、安心して子育てできる地域だと思えました。街の環境も、子育てしやすくあってほしいと思います。

こちらに関しては、実験としてスタートすることですから、結果をしっかり評価してほしいと思います。

追記：一方通行にすると、ただでさえ分かりづらい湯本の道がさらに分かりづらくなるのもマイナス点かと思えます。

④フラの街の玄関口として云々

これこそ、新しい何かをやるよりも、現在ある取り組みを見直すべきかと思えます。商店街の街灯や電柱にレイをかけてみるのはいいけれど、雨やらで汚くなってもそのままだったり、鶴の足湯で行われるフラ女将のダンスイベントも、中止案内が当の会場になされておらず中止となったことを知らない方が、待ちぼうけを食らった（そしてあきらめた）という話も聞きま

御意見のとおり、既に湯本駅周辺には、いわき湯本ならではの面白さが沢山あり、そのことを市民も含め認知してもらうことは大変重要と考えています。

さはこの湯周辺の道路空間の整備については、当該通りが「温泉街回遊の骨格軸」として形成するための検討の一つの案として計画に記載しています。また、啓発等により通過する交通量を減らす取り組みも重要と考えています。

その取り組みの内容については、御意見も含め、今後、地域住民の皆様や関係機関などとの協議・調整を進めながら検討することとしております。

また、本計画は、温泉とフラをテーマに設定しておりますが、全体で一貫性のある考え方・デザインでまちを形づくることが不可欠でありますので、各取り組みがいわき湯本温泉を温泉観光地としてブランド化していく視点・戦略をもって、まちとしての統一感や連続性、エリアの魅力が発信される仕組みづくりを検討していきます。御意見も踏まえ、【全体計画】に、今後の進め方について追加します。

	<p>した。</p> <p>これらは市の管轄ではないのかもしれませんが、そんなことは、他所から来た方々は知ったことではないでしょう。</p> <p>このような小さいことの積み重ねが、いわき市のフラの街構想の中途半端感を増強させているように感じます。</p> <p>いわき市は、何かを始めるときにまずキャラを作ってみたりロゴを作ってみたりしますが毎度、それを使ってどうしたいのかがあまり見えてきません。だから中途半端になるんじゃないでしょうか。(そもそも、フラの街については、市で言い出していることなのに湯本だけにおっ被せてきているという印象があります…)</p> <p>ハワイアンズ周辺のフラの街感のなさも然りです。県外から来た友人は軒並み驚いて帰りました。フラの力を借りるのならば、常磐地区や民間企業ともう少し足並みを揃えて、現状を改善したらどうかと思います。</p> <p>批判が多くなってしまいましたが、長く住むであろう常磐地区がもっと面白い街になってほしいと切に願っております。</p>	
41	<p>駅前再開発を進めていくうえで、駅の利用者を減らさない(湯本の場合であれば、1995年水準の利用者)活動が必要。そのためには、マイカー移動に頼らない総合交通体系が必要。(都市計画を含め)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流拠点施設を考えているのであれば、公民館(役割の一つが交流拠点なので)と図書館、支所を駅に持ってくれば良い。(駅の待合室も交流拠点として使う。)あえて、駐車場は設けず(身障者用の数台のみ)、現在の支所の場所から歩いてもらう。(商店街を通ってもらう) ・関船体育館は利用状況が分からないので、必要かどうか分からない。公民館、市民会館は、スケート場やカーリング場(温泉熱を利用)として活用。 ・にぎわい再生事業は難しい <p>この20年以上、諸々の助成金等を使って、事業を行ってきたにもかかわらず…。</p> <p>駅より600m圏内(徒歩圏)、駅より2km圏内(自転車圏)での人口が駅を利用しなければ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光地域づくり事業は、「フラ女将」が図書館でボランティアをして、決まった時間にフラを披露するとか、特急の到着に合わせて、じゅんがらを披露する等も必要。(まちなかには観光資源が乏しいので) ・滞留拠点事業は、現在の支所敷地に、現在の湯治宿(ターゲットは首都圏の観光客)を建設。(はじめは20軒ぐらい)例えば、夫妻で3週間から1ヶ月20万円で生活できるようにできないか。 ・魅力ある街並み空間整備事業は、人それぞれイメージが違うので、サンアビリティーズやゆったり館の利用者にとって、利便性の良い環境にしては。 	<p>常磐地区における市街地再生を実現するには、安全で利便性の高い公共交通の確保が重要であると認識しており、本計画では、「車から人中心への転換」や「公共交通の利便性・快適性の向上」、「車両の輻輳による危険な状況の解消」に取り組むこととしています。</p> <p>また、本年8月に第二次いわき都市圏都市交通マスタープランを策定し、実行計画となる都市・地域総合交通戦略及び地域公共交通計画の検討を進めているところであり、いただいた御意見も踏まえ、<u>多様な交通手段の導入など、楽しいお出かけが実現できる取り組みについて、検討を進めていきたいと考えています。御意見を踏まえ、【全体計画】P10の「湯本駅前街区再編・駅前広場整備事業」の文章、「整備コンセプト(案)」、及び【多世代が集う交流拠点施設基本計画】P11の「駅前交通広場の施設づくりの考え方」について修正</u>します。</p> <p>そのほか様々な御提案については、地域や関係機関とも共有を図りながら、今後、各取り組みの具体的な検討を進めていきます。</p>

	<p>温泉街は、全国のベスト 20 以外は、宿泊客は減少傾向にある。いわき湯本温泉は、ターゲットの顧客層が明確になっていないのでは。また、市内外の工場等（原発関係も含む）の顧客を大切にしていないのでは。（リピーターにもなり得るのに）いわき湯本温泉は、リピーター率が低いことをきちんと考えているのであろうか。</p> <p>いわき市は、中核市の中で、1 番マイカー依存率が高い。（公共交通利用率が 1 番低い、10% 未満）そのため、この問題を何とかしないと、まちとしての存続も難しいのではないかと思う。</p>	
42	<p>湯本駅前の天王崎市営住宅の跡地は、どうなるのだろうか？湯本町の住民の重大関心事でした。昔と違い、すっかり淋しくなってしまった湯本温泉をどうやったら魅力ある町にする事が出来るのか？ずっと湯本町の事を考えていましたが…。それがこの度、市街地再生という事で、湯本町が大きく変わるらしい、市が動いてくれる、これは未来に向かって大きな希望です。</p> <p>関船にある体育館、公民館、市民会館、図書館、そして常磐支所の老朽化のため、それらをまとめて駅前に持ってくるという事ですが、何故駅前になければならぬのでしょうか？公共施設は、支所を含めて関船に建設すれば良いと思います。</p> <p>湯本の駅前は、湯本温泉の玄関口として、駅舎も含めて観光地らしい雰囲気作りが必要だと思います。</p>	<p>公共施設の集約については、一つの機能や偏った機能の施設または施設群が単独で立地していた場合、まちへの立ち寄りがうまれにくく、また、過度に車に頼ってしまうところがあるため、地域経済への波及や健康の増進、効率的なインフラの実現に向けては、コンパクトなまちづくりが重要と考えています。湯本駅前については、鉄道やバスなどの交通結節点であり、地域住民をはじめ観光客が利用する、まちの玄関口となっています。そのため、今後の急速な人口減少や超高齢社会の到来なども踏まえ、駅前を単なる通過場所ではなく、地域住民も含め、多くの立ち寄りや交流が生まれる場所とすることとし、公共機能と民間機能を備えた交流拠点を形成する計画としています。</p> <p>湯本温泉の玄関口として、観光地らしい雰囲気づくりの重要性に関する御意見も踏まえ、駅前の各取り組みや温泉街の魅力ある街並み空間の実現に向け、検討を進めていきます。</p>